

平成 27 年度
沖縄振興特別推進交付金

平成 27 年度
関係地権者等の意向醸成・活動推進調査業務
報 告 書

平成 28 年 3 月
宜 野 湾 市

目次

1. 今年度業務の目的と基本的な考え方	1
1-1. 今年度業務の目的.....	1
1-2. 今年度業務の基本的な考え方.....	2
2. 今年度の成果と課題	3
2-1. 「必要な情報提供、情報伝達状況の確認」の成果と課題.....	3
2-2. 「市民・地権者等の意見・意向把握の実施、しくみづくり」の成果と課題	6
2-3. 「若手の会」「NBミーティング」の活動支援の成果と課題.....	15
2-4. 「懇話会の開催」の成果と課題.....	26
3. 次年度以降の方向性と活動内容	30
3-1. 次年度以降の方向性	30
3-2. 次年度以降の活動内容（案）	32
4. 各種合意形成活動の取り組み概要	35
4-1. 「必要な情報提供、情報伝達状況の確認」の取り組み.....	35
(1) 地権者支援情報誌「ふるさと」の作成・発行.....	35
(2) まち未来だよりの作成・発行.....	38
(3) ホームページの充実化	40
4-2. 「市民・地権者等の意見・意向把握の実施、しくみづくり」の取り組み.....	41
(1) 「まち歩きとまちづくり座談会」の開催.....	41
(2) 世代交流ディスカッションの開催	51
(3) 若い世代間での意見交換会や討論会等のイベントの開催.....	53
(4) -1 字別意見交換会の開催.....	55
(4) -2 地主会役員との意見交換会の開催.....	64
4-3. 「若手の会」「NBミーティング」の活動支援の取り組み.....	71
(1) 「若手の会」の活動支援	71
(2) 「NBミーティング」の活動支援.....	74
(3) 若手の会・NBミーティング合同勉強会	81
(4) 先進地視察会	90
(5) 若手の会・NBミーティングの意見交換会の開催	121
(6) パンフレットの制作	130

4-4. 「懇話会の開催」の取り組み.....	133
(1) 第1回実施概要及び議事要旨.....	133
(2) 第2回実施概要及び議事要旨.....	143
(3) 第3回実施概要及び議事要旨.....	151
(4) 第4回実施概要及び議事要旨.....	159
(5) 第5回実施概要及び議事要旨.....	167
(6) 第6回実施概要及び議事要旨.....	172
(7) 第7回実施概要及び議事要旨.....	181
(8) 「普天間飛行場跡地まちづくり合意形成懇話会」設置要綱.....	188

1. 今年度業務の目的と基本的な考え方

1-1. 今年度業務の目的

(1) これまでの取り組み背景

関係地権者等意向醸成については、「普天間飛行場の跡地利用の促進及び円滑化等に係る取組分野ごとの課題と対応の方針についての取りまとめ」を受けて、「普天間飛行場関係地権者等意向把握全体計画（H13年度）」が策定された。その後、「計画づくり」、「地権者等意向醸成」に関する取り組みが進められてきている。

①計画づくり

計画づくりについては、「跡地利用基本方針、行動計画の策定」、「キックオフ・レポート、土地利用・環境づくり方針案の作成」、「全体計画の中間取りまとめ（素案）作成」、「全体計画の中間取りまとめの策定」という流れで段階的に具体化が進められてきている。今後は平成29年度に「跡地利用計画（素案）」の策定が予定されている。

②地権者等意向醸成

合意形成に向けた場づくり・人づくり・組織づくり等の活動を長期的展望のもとに展開し、「普天間飛行場の跡地を考える若手の会（以下、若手の会）」、「ねたてのまちベースミーティング（以下、NB ミーティング）」の組織化等が図られてきた。

また、各種団体や大学生等と地域全体の連携のもと協働の取り組みが展開されている。

(2) 本業務の目的

平成29年度に策定が予定されている「跡地利用計画（素案）」に向け、地権者等意向醸成（本業務）においても計画や事業の具体化に向けた合意形成に転換していく重要なステップを迎えている。

そのため今年度においては、「全体計画の中間とりまとめ」の内容の更なる周知を図った上で、「跡地利用計画（素案）」策定後の事業化に向けた対応を見据え、地権者・市民の意向集約に向けた体制づくりを徐々に整えていく事とする。

また、今後は事業化に向けたより具体的な検討がなされていく事から、土地活用の手法等具体的な知識の習得を図っていく事とする。

1-2. 今年度業務の基本的な考え方

前頁の目的を踏まえ、今年度業務の基本的な考え方と取り組み方針は、以下の通りとする。

【今年度業務の基本的な考え方と取り組み方針】

基本的な考え方	取り組み方針
中間取りまとめの内容の更なる周知	<ul style="list-style-type: none"> ・説明会等の場での詳細な説明。 ・継続的な情報発信を行い、内容の周知と跡地利用に対する機運を高める。 ・イラストや図等を多用した分かりやすい情報提供の実施。
土地の共同利用に関する知識の習得	<ul style="list-style-type: none"> ・共同利用に関する勉強会により知識の習得を図ると共に、まちづくりへの機運醸成を図る。
回収率向上に向けた取り組みの実施	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート実施の目的及び重要性について詳細な説明。 ・継続的な情報発信を行い、内容の周知と跡地利用に対する機運を高める。
事業化に向けた地権者の体制づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・若手の会と地主会の連携強化のための活動展開(普天間飛行場対策部会との連携体制づくり) ・若手の会の定例活動の充実及び自主活動の支援による活動の活性化。
市民の関心の向上に向けた取り組みの実施	<ul style="list-style-type: none"> ・継続的な情報発信を行い、内容の周知と跡地利用に対する機運を高める。 ・イラストや図等を多用した分かりやすい情報提供の実施。 ・市外、県外への情報発信に向けたホームページの更新。 ・NBミーティングの活動活性化に向けた魅力的な活動の実施と活動内容周知のための情報発信。 ・市民自身が住む地域の点検からまちづくりの議論に繋げ、機運を高める。
「(仮) ゆめ会議」の組織化に向けた取り組みの実施	<ul style="list-style-type: none"> ・合意形成活動の方向性等について継続した議論を実施。 ・若手の会及びNBミーティング合同での勉強会や意見交換会、先進地視察会等の継続実施による組織間の連携強化

「全体計画の中間とりまとめ」の更なる周知及び土地の共同利用に関する知識の習得を図る事により、今後実施する地権者アンケート調査の回収率向上にも繋げていくものとする。

また、地権者のまちづくりに対する更なる啓発と合わせて、今後の事業化に向けた地権者の体制づくりを進めていく事とする。

市民に対しては地権者と同様に全体計画の中間取りまとめの更なる周知を行う事と併せ、関心向上に向けた取り組みを継続して行う事とする。

そして今後の「(仮) ゆめ会議」の組織化に向け、地権者及び市民の組織や連携体制の確立を目指し、合意形成活動の方向性等について議論を継続して行っていく事とする。

2. 今年度の成果と課題

2-1. 「必要な情報提供、情報伝達状況の確認」の成果と課題

取り組み方針①：地権者・市民それぞれを対象とした情報誌の発行による継続的な情報提供

取り組み方針②：今年度の合意形成活動の取り組み内容をわかりやすく情報提供

取り組み方針③：市外、県外への情報発信に向けたホームページの更新・充実化

(1) 地権者支援情報誌「ふるさと」の作成・発行

【取り組みのポイント】

地権者に対して、跡地利用に関する行政側の情報や若手の会の活動等に関する情報の提供、また、各種説明会等への参加の促進を目的として、重要な情報発信媒体として地権者支援情報誌「ふるさと」の発行を行う。

また、字別意見交換会の開催前の周知及び開催後の結果報告と若手の会の「土地の共同利用」に対する検討結果の報告、さらに、次年度に実施予定のアンケート調査の周知等を行うこととする。

【取り組み成果と今後の課題】

【取り組み成果】

● 「ふるさと」の発行による合意形成活動の取り組み情報の共有化が図られた。

- ・今年度、地権者との意見交換・直接的な情報発信の機会として実施した字別意見交換会開催前の周知及び開催後の結果報告を中心とした情報提供を行った。

【今後の課題】

- 増加し続ける地権者へ平等に情報提供を継続する媒体として、今後の計画づくりの進捗等も考慮しながら、時期を捉えた的確な情報発信を継続して行う必要がある。
- 高齢の地権者も含めて、地権者全体に幅広く興味・関心を持ってもらうため、わかりやすさの工夫や情報発信媒体としての親しみやすさ等も含めて、継続して検討していく必要がある。

図：地権者支援情報誌「ふるさと」

※詳細は本編P35～37を参照



(2) まち未来だよりの作成・発行

【取り組みのポイント】

市民を対象とした、情報誌「まち未来だより」による情報提供を行い、情報発信媒体としての確立を目的とする。情報誌による情報提供にあたっては、跡地利用に関する情報だけでなく宜野湾市全体のまちづくりに関する情報をわかりやすく提供することで市民が親しみを感じられる情報誌となることに留意する。また、「まち未来だより」の発行によって、跡地利用に向けた現在の進捗状況等に関する情報提供を行うとともに、NB ミーティングの認知度向上に向けた活動の周知や市民のまちづくり機運向上を目的に実施した「まち歩きとまちづくり座談会」等の周知等を行うこととする。

【取り組み成果と今後の課題】

【取り組み成果】

- 市民全体を対象とした情報誌の発行を通して、市民に対し跡地利用に向けた取り組みに関する情報の共有化が図られた。
 - ・情報誌を通じて市民のまちづくり機運醸成を目的に自治会を対象に実施した「まち歩きとまちづくり座談会」に対する情報提供や、「世代交流まちづくりゆんたく会」、「学生円卓会議」に対する情報提供により、跡地利用に向けた取り組みに関する情報の共有化が図られた。
- 跡地利用に関する情報と併せて、NBミーティングの周知に繋げることができた。
 - ・市民が関心を持ちやすい宜野湾市全体のまちづくりに関連する情報の提供と併せて、NBミーティングの取り組み紹介等を掲載し組織の周知に繋げることができた。
- 「まち未来だより」の発行にあたってはイラストや写真の活用等により、視覚的に伝える情報提供が可能となった。
 - ・文字による情報提供だけではなくイラストや図の活用等によって、視覚的に伝える新しい情報提供が可能となった。

【今後の課題】

- 市民に対して跡地利用や宜野湾市のまちづくりに関する最新情報や取り組み状況等に関する正しい情報の周知徹底を図るため、今後も継続して「まち未来だより」を発行していく必要がある。
- 跡地利用の実現に向けては、周辺市街地整備を併せて実施していく必要があることから、今後は「まち歩きとまちづくり座談会」のような市民のまちづくり機運向上を目指した取り組みを積極的に展開していく必要がある。そのため、情報誌を通じた開催案内や活動結果の報告等を行うことで、市民の参加・協力を促していくことが求められる。



図：「まち未来だより」

※詳細は本編P38～39を参照

(3) ホームページの充実化

【取り組みのポイント】

市外・県外に対して広く普天間飛行場跡地利用に関する取り組み状況等の周知方法として、跡地利用に係る行政側からの情報や若手の会、NB ミーティングの活動状況等の情報を提供するため、まち未来課のホームページの充実化を図るものとする。

【取り組み成果と今後の課題】

【取り組み成果】

- 市外・県外の地権者や普天間飛行場跡地利用に関心を持った住民等に対し、幅広く情報を提供することができた。
- ・ホームページ上での情報提供によって、市内の地権者や市民はもちろんのこと、市外・県外の地権者や関心を持った住民等に対し、普天間飛行場跡地利用に関する取り組み状況等を発信することができた。

【今後の課題】

- 市外・県外の地権者を始めとする幅広い対象者へ、継続的に情報提供を行っていくため、ホームページを媒体とした情報発信を継続する必要がある。
- 高齢の地権者も含めた誰もがホームページ上で必要とする情報を閲覧出来るよう、わかりやすさを重視したみせ方の工夫等について今後検討が必要である。

2-2. 「市民・地権者等の意見・意向把握の実施、しくみづくり」の成果と課題

- 取り組み方針①：跡地を含む宜野湾市全体に対する市民全体のまちづくり機運醸成に向け、自身の住む地域のまちづくりの点検から跡地のまちづくり議論につなげるための段階的な取り組みの継続
- 取り組み方針②：NB ミーティングの新規メンバー獲得に向け、対外的な場での会の活動周知や市民の関心を引く活動の積極的な展開
- 取り組み方針③：「字別意見交換会」の開催による、「中間取りまとめ」の周知と「土地の共同利用」に関する情報発信

(1) 「まち歩きとまちづくり座談会」の開催

【取り組みのポイント】

普天間飛行場の跡地利用に向けては、周辺市街地と一体となった整備が必要となる。市民にとって跡地利用は「地権者の問題」という意識があるため、跡地利用と併せた周辺市街地の整備に向けては、まずは市民のまちづくり機運の醸成を図る必要がある。また、将来的に跡地利用を契機として宜野湾市全体のまちづくりを検討していくためには、市民によるまちづくり議論が展開できるよう、段階的にステップアップできる取り組みを継続的に実施していく必要がある。そこで、自治会単位で自身の住む地域のまちづくりの点検と評価を行う「まち歩きとまちづくり座談会」を開催する。

【概要】

●まち歩きとまちづくり座談会 in 野嵩1区

○開催日時：平成27年12月12日（土） 13：30～16：30

○開催場所：野嵩1区自治会事務所

○参加者：12名（野嵩1区自治会役員）

●まち歩きとまちづくり座談会 in 喜友名区

○開催日時：平成28年1月16日（土） 13：30～16：30

○開催場所：喜友名区自治会事務所

○参加者：15名（喜友名区自治会員、学生円卓会議登壇学生）

●まち歩きとまちづくり座談会 in 真栄原区

○開催日時：平成28年2月13日（土） 13：30～16：30

○開催場所：真栄原区自治会事務所

○参加者：17名（真栄原自治会員）

【取り組み成果と今後の課題】

【取り組み成果】

- 「まち歩きとまちづくり座談会」では、跡地のまちづくり議論につなげるための第一歩として自治会単位で地域の点検を行い、市民のまちづくり機運の向上を図ることができた。
- ・野嵩1区自治会及び喜友名区自治会、真栄原区自治会を対象に実施した「まち歩きとまちづくり座談会」では、地域住民が地域の良い点、改善が必要な点を点検し、将来の地域のまちづくりについての議論・検討を行った。
- ・「まち歩きとまちづくり座談会」を通して地域資源として活用したい点や、改善が必要な点等に関する情報が参加者同士で共有され、市民のまちづくり機運の向上を図ることができた。

【今後の課題】

- 今年度は3地区を対象に実施したため、市民全体のまちづくり機運の醸成に向けて今後も普天間飛行場に隣接する区を中心として実施地区を増やしていく必要がある。
- 今年度は周知期間が短かったため、今後は早期に取り組みを開始し、自治会行事等の調整を図りながら周知期間を設けていく必要がある。
- 今年度実施した地区に対しても内容をステップアップさせながら継続的に地域のまちづくりに関する検討を行い、将来の宜野湾市全体のまちづくり議論の展開につなげる必要がある。



写真：まち歩きのようす



写真：まち歩きの結果の発表のようす

※詳細は本編P41～49を参照

(2) 世代交流ディスカッションの開催

【取り組みのポイント】

跡地利用に対する市民の関心の向上を図るきっかけづくりとして、「普天間飛行場跡地の未来を考えよう！」をテーマとして「世代交流まちづくりゆんたく会」と題した意見交換会及びワークショップを開催する。

「世代交流まちづくりゆんたく会」では幅広い世代の方を招き、世代を超えた意見交換及びワークショップを行うことで市民の跡地利用に対する関心の醸成を図る。また、併せてNBミーティングの活動周知を行うことで会の認知度向上、新規メンバー獲得につなげる。

【概要】

●世代交流まちづくりゆんたく会

○開催日時：平成28年1月30日（土） 13：00～16：00

○開催場所：宜野湾市中央公民館展示室（宜野湾市民会館2F）

○内 容：①普天間飛行場跡地利用計画に係る取り組み状況の説明

②NBミーティングの取り組み紹介

③宜野湾での思い出を絵に書いてみよう！

④「普天間飛行場跡地の未来を考えよう！」をテーマにしたディスカッション

⑤「私たち市民が跡地利用に望むこと」をテーマにしたワークショップ

○参加者：20名

【取り組み成果と今後の課題】

【取り組み成果】

●対外的な取り組みの実施によって、市民が跡地のまちづくりを考えるきっかけづくりを行うことができた。

- ・市民を巻き込んだ対外的な取り組みの実施によって、市民が跡地のまちづくりを考えるきっかけづくりを行うことができた。

●NB ミーティングにおける跡地利用の議論の材料として活かせる、様々な世代の意見を把握することができた。

- ・各世代の市民による意見交換が行われたことでNBミーティングでの今後の議論の材料として活かせる様々な世代の意見を把握することができた。

●各世代の考えを集約したまちづくりのイメージについて、レゴブロックを活用したワークショップで可視化ができ、まちづくりを考える楽しみを提供できた。また、ワークショップを通して、世代間の交流の場の創出が図られた。

- ・意見出しで終わるのではなく、レゴブロックを活用したワークショップの中で、各世代のまちづくりのイメージを可視化する事で、参加者の楽しみを引き出すことができ、世代間の交流にもつなげる事ができた。さらに、各グループの意見交換の声を聞きながら、イラストで表現するライブペイントという新しい取り組みを行うことによって、今回の話し合いの場をイメージと共に記憶に残すことができた。

【今後の課題】

→今後は次のステップとして、関心の高まった市民に NB ミーティングに加入頂けるよう、対外的な場において NB ミーティングの活動周知や積極的な PR を行い、会の認知度を向上させる必要がある。

→各世代から多くの参加者があり、世代を超えてそれぞれの意見や考えを共有し楽しむ姿を伺う事ができたため、今後は NB ミーティング定例会の場でも卓上の議論のみではなく、これまでの経験を活かし「まちづくりワークショップ」等の取り組みを行い、定例会内容の幅を広げて市民の興味関心を促していく。



写真：宜野湾市による跡地利用に関する説明



写真：ディスカッションのようす①



写真：ディスカッションのようす②



写真：ワークショップのようす

(3) 若い世代間での意見交換会や討論会等のイベントの開催

【取り組みのポイント】

跡地利用に対する市民の関心向上を図るきっかけづくりとして、「市民目線で跡地利用を考える」をテーマとして「NBM Youth Conference Netate2016 普天間飛行場跡地利用学生円卓会議」と題した討論会及び意見交換会を開催し、市民の跡地利用に対する関心の醸成を図ることと併せ、NB ミーティングの活動周知及び新規メンバー獲得を図る。

「学生円卓会議」では宜野湾市の将来のまちづくりを担う大学生を登壇者として招き、各学生の専門分野にもとづく討論を行う。なお、登壇者については、事前学習会を行い、現在の跡地利用計画、他地域の軍用地跡地利用事例、周辺地域の現地視察会等を通して知識を習得した上で、討論会及び意見交換会に参加を行うものとする。

【概要】

●学生円卓会議

○開催日時：平成 28 年 2 月 27 日（土） 13：00～18：00

○開催場所：沖縄コンベンションセンター会議棟 A棟A2

○内 容：①普天間飛行場跡地利用計画に係る取り組み状況の説明

②登壇学生による議論（11名）

③大学生の議論に対して一般参加者を交えたディスカッション

○参加者：39名（大学生の登壇者11名、一般参加者28名）

【取り組み成果と今後の課題】

【取り組み成果】

●対外的な取り組みの実施によって、市民が跡地のまちづくりを考えるきっかけづくりに繋がった。

- ・市民を巻き込んだ対外的な取り組みの実施によって、市民が跡地のまちづくりを考えるきっかけづくりに繋がった。

●「学生円卓会議」の開催を通じて、登壇学生及び一般参加者として参加していた学生の跡地利用に対する関心の向上に繋がった。

- ・「学生円卓会議」の開催にあたっては登壇学生を対象に事前学習会を開催しており、跡地利用に関する知識習得や学生間の討論会、意見交換等を通じて登壇学生の関心が高まった。
- ・「学生円卓会議」では登壇者以外の学生にも一般参加者としての参加を呼びかけた。当日は登壇学生による熱のこもった討論がなされたことにより、一般参加者として参加していた学生の関心も高めることができた。

【今後の課題】

- 跡地利用に対する市民の関心を図るきっかけづくりを行うことができた。今後は次のステップとして、関心の高まった市民に NB ミーティングに参加して頂けるよう、対外的な場において NB ミーティングの活動周知の方法を工夫し、会の認知度を向上させる必要がある。
- 学生による討論会を実施したことにより、跡地利用に対する若い世代の関心の向上を図ることができた。今年度は 11 名の学生が登壇者となって討論会を行ったが、今後はさらに多くの参加者による討論会、意見交換等が実施できる場づくりや、継続した取り組みを進められるようにする必要がある。
- 学生による活発な討論がなされ、参加者の関心を引いたが、今後は過去の結果も活かし、最終的な学生の意見のとりまとめを行う必要がある。
- 今後、より多くの一般参加者を増やし意見を聞くために、大学と連携した周知方法や講義と合わせた形での参加等を検討する必要がある。



写真：NB ミーティング会長によるあいさつ



写真：宜野湾市による跡地利用に関する説明



写真：ディスカッションのようす



写真：一般参加者との意見交換のようす

(4) - 1 字別意見交換会の開催

【取り組みのポイント】

地権者との直接的な対話の場として、平成 24 年度まで「地権者懇談会」を開催してきたが、行政からの情報発信だけでなく、参加した地権者の意見の誘発と関心を高める取り組みが必要となっていた。

そこで今年度は行政の説明に加えて、若手の会で今年度検討してきた「土地の共同利用」に関する情報発信も併せて行う「字別意見交換会」を開催し、中間取りまとめ等の計画づくりに関するこれまでの経緯と進捗状況の報告、地権者の土地活用に関する情報提供・説明・意見交換を実施する。また、次年度に実施予定のアンケート調査の周知を図ることも併せて行う。

【概要】

○開催日：平成 28 年 2 月 4 日（木）、12 日（金）、15 日（月）、18 日（木）、21 日（日）

○内 容：①計画づくりのこれまでの経緯

②- 1 跡地利用計画実現のために

②- 2 若手の会の紹介

②- 3 夢を実現する土地活用に向けた私たちの考え（案）

③質疑応答、意見交換

表：「字別意見交換会」の開催日時、会場、対象地区、参加者数

No	開催日時	会 場	対象地区	参加者数
1	平成 28 年 2 月 4 日（木） 19：00～20：30	宜野湾区公民館	宜野湾、佐真下	22 名
2	平成 28 年 2 月 12 日（金） 19：00～20：30	宜野湾市農協会館 （2 階 蘭の間）	野嵩、中原、赤道、上原、神山	25 名
3	平成 28 年 2 月 15 日（月） 19：00～20：30	沖縄コンベンションセンター （会議棟 B2）	大山、伊佐、真志喜、大謝名	23 名
4	平成 28 年 2 月 18 日（木） 19：00～20：30	喜友名公民館	新城、喜友名	11 名
5	平成 28 年 2 月 21 日（日） 14：00～15：30	宜野湾市立中央公民館 （2 階 集会場）	全地区	26 名
合計				107 名

※参加者数に若手の会の参加者の人数は含まない

【取り組み成果と今後の課題】

【取り組み成果】

- 「土地の共同利用」について、地権者の土地活用の手法の1つとして理解が深められた。
- ・ 地主会・若手の会と行政の協力及び役割分担によって「字別意見交換会」が開催され、参加した地権者に対する情報発信が行われた。
- ・ 地主会・若手の会から次年度に実施予定のアンケート調査の協力依頼を行い、地権者の意向を明確に示していくことの必要性が参加者に伝えられた。
- ・ 参加者数は5回で計107人（約21人/回）であった。
- ・ 地権者または地権者子息である若手の会が検討結果を発表したことで、参加者に若手の会の考えの一部が伝わり、参加した地権者から若手の会に対する信頼や期待に結びついた。

【今後の課題】

- 今年度の開催結果を踏まえて、参加者から意見を出しやすい雰囲気づくり、集まりやすい会場の選定と参加の周知の工夫が必要である。
- 全地権者を対象として周知を行ったことに対し、参加人数は限定的であった。今後はより多くの地権者が参加するための周知方法や説明内容も含めて、更なる検討が必要である。



写真：字別意見交換会のようす①



写真：字別意見交換会のようす②

(4) - 2 地主会役員との意見交換会の開催

【取り組みのポイント】

若手の会と地主会の連携強化を図りながら合意形成に向けた取り組みを進めるため、「字別意見交換会」での一般地権者に対する若手の会の検討結果の発表に先立って、地主会役員等を対象とした意見交換会を開催する。

【概要】

●地主会役員と若手の会との意見交換会

○開催日時：平成 28 年 1 月 28 日（木）19：00～20：30

○開催場所：宜野湾市農協会館 2 階

○内 容：①字別意見交換会の実施概要について

②「普天間飛行場の跡地を考える若手の会」からの報告

○参加者：18 名（地主会役員等 9 名、若手の会 7 名、地主会事務局 2 名）

【取り組み成果と今後の課題】

【取り組み成果】

●若手の会の検討結果について地主会役員との共通認識が図られた。

- ・若手の会から「土地の共同利用」の検討結果の発表と意見交換を行ったことで、地権者の土地活用と計画的なまちづくりを進める手法の一つとして、共通認識を図ることが出来た。
- ・地主会参加者の指摘等を踏まえ、「字別意見交換会」の説明内容へ地権者の視点を反映させた内容とすることが出来た。

●地主会から若手の会の今後の活動に対する期待に結びつけることが出来た。

- ・将来的な地権者の組織化の必要性は地主会参加者も認識されており、「土地の共同利用」を手法の一つとして、若手の会による検討の継続が求められている。

【今後の課題】

→地主会と若手の会の連携体制をさらに強化していくため、今後も継続した意見交換等の取り組みが求められる。



写真：意見交換会のようす
※詳細は本編 P 64～70 を参照

2-3. 「若手の会」「NB ミーティング」の活動支援の成果と課題

取り組み方針①：若手の会と地主会との連携強化

取り組み方針②：普天間飛行場の跡地利用における望ましい事業手法の検討

取り組み方針③：地権者による共同利用のパターン検討

取り組み方針④：NB ミーティングの新規メンバーの獲得に向け、対外的な場での会の活動周知や市民の関心を引く活動の積極的な展開

取り組み方針⑤：NB ミーティングの認知度向上に向けた情報発信媒体の作成、活用

取り組み方針⑥：地権者・市民の合意形成の中核組織による連携体制の強化

(1) 「若手の会」の活動支援

【取り組みのポイント】

若手の会は設立から10年以上が経過した中で、まちづくりに関する知識を習得し、中間取りまとめ等に対して、地権者側の検討組織として提言を行ってきた。

こうした状況の中、平成29年度に跡地利用計画（素案）が策定された後は、事業化に向けた検討が具体化していくことから、円滑な合意形成と地権者意向を反映した跡地利用計画を実現させるため、平成29年度までの3ヶ年において、事業手法や共同利用に関する知識の習得を重点的に行っていくこととする。

また、地権者全体に対し、跡地利用計画のこれまでの経過と、地権者の土地活用に関する若手の会の検討結果の発信を図るため、過去に開催されてきた「地権者懇談会」に代えて、今年度は行政と若手の会による説明・意見交換の場として「字別意見交換会」を開催する。

【取り組み成果と今後の課題】

【取り組み成果】

● 「土地の共同利用」に関する知識の習得と若手の会の考えが取りまとめられた。

- ・アワセゴルフ場地区や県外視察の事例研究等を踏まえ、「土地の共同利用」が地権者の有効な土地活用手法の一つとして理解された。
- ・その上で、若手の会が地権者の視点から期待や不安等を検討し、「夢を実現する土地活用に向けた私たちの考え（案）」として取りまとめられた。

● 先進地視察会等を通して事業化段階における合意形成のポイントが認識された。

- ・港北ニュータウンのまちづくりのプロセスを学習したことで、地権者が参画した申出換地と土地利用規制を組み合わせることによって、計画的なまちづくりを実現出来ることが認識された。
- ・定例会においても継続して区画整理や申出換地等の知識の習得が図られたことで、事業化に向けた合意形成の中で、地権者間の不公平感への対応や地権者の協力の必要性等も認識された。

●**知識の共有を図る取り組みが実施され、基礎知識の底上げが図られた。**

- ・若手の会の内部でも知識の差が広がりつつある状況の中で、若手の会の発意により、継続して事業化に関する知識の習得を図ることを目的として、「若手の会の知恵袋」を案内文に同封することで、基礎知識の底上げが図られた。

●**「字別意見交換会」で初めて検討結果を一般地権者に発表したことで、若手の会の知名度の向上が図られた。**

- ・「字別意見交換会」は若手の会の検討成果を初めて一般地権者へ直接的に発表する機会となった。
- ・若手の会内部の役割分担により、対象地域毎に説明者が選出された。説明者が自身の言葉で伝えたことで、参加した地権者へ跡地利用に関する理解や関心の向上に結びついた。
- ・説明者を含めた若手の会においても、説明に対する責任と理解の深化が図られた。
- ・今後会の活動を発展させていくにあたって会のあり方や継承方法等、新たな合意形成活動に向けた認識が生まれた。

【今後の課題】

●**若手の会の組織・体制の見直し・強化の検討が必要である。**

- 若手の会で10年以上活動を積み重ねてきたことで、会員の年齢層は上昇している。将来を見据えた合意形成活動を展開していくためには、若い年齢層や女性メンバー等の新たな人材の獲得によって組織のすそ野を広げる取り組みが必要である。
- これまで検討を積み重ねてきた知識や人材を継承させるため、地主会との連携方策も見据えた中で、若手の会の組織・体制の見直し・強化の検討が必要となっている。

●**若手の会と地主会の連携方策の再考が必要である。**

- 地主会役員を対象とする「出前意見交換会」は、今年度は「字別意見交換会」に専念したため開催することが出来なかった。
- 地主会役員と若手の会の情報共有と意見交換の機会を確保することは円滑な合意形成活動を進めていく上で必須であることから、継続的に実施可能な取り組みについての検討が必要である。

●**地権者の合意形成のツールとなる「跡地利用の理想像」の検討が必要である。**

- ・港北ニュータウンの視察会を通じて、地権者全員が共通認識できるまちづくりの哲学・理念の必要性が認識された。
- ・中間取りまとめで示された「緑の中のまちづくり」のキーワードについて、若手の会の中で共通の考え方が漠然としている状況である。従って、これまでの若手の会の提言等を踏まえた「跡地利用の理想像」の検討が必要である。



写真：定例会のようす



写真：アワセゴルフ場 意見交換会のようす

平成28年1月時点
夢を実現する土地活用に向けた私たちの考え（案）

普天間飛行場の跡地を考える
若手の会

1. 地権者が夢を描けるまちづくりとまちの魅力づくり

※普天間飛行場の跡地利用では、北谷町美浜地区や那覇新都心地区とは異なったまちづくりを実現させていきたいと考えています。

そのため、まちの核となる魅力づくりと地権者の有効な土地活用の手法の1つである**共同利用**について検討しました。

◆共同利用の仕組みに望むこと

1. 核となる魅力づくりのための必要性（地権者の参画による土地活用の実現）
⇒ネットワーク型の緑地と連携して、まちの核となる魅力を生み出す
2. 地権者の土地活用意向と生活再建築としての必要性（単用地料に代わる収入の確保）
⇒地権者の参画による土地活用の実現（移住者や進出企業等へ供給する用地の可能性を提示することが必要）

【若手の会の主な意見】

- ・大規模公園が魅力的に活かされる
- ・大規模公園と連携し、観光客や県外のマーケットも見据えて人を引き寄せる
- ・普天間飛行場にしかないもの（地域資源・基地の記憶）を活用し、継続して人を集める
- ・海外も含め、まちの将来像にあった企業誘致
- ・その時点の最先端のものを取り込んでいく

2. 共同利用の検討の経過

返還後の地権者の土地活用として、「自己活用したい」、「貸したい」、「売りたい」、「保有しておきたい」、「現時点では未定」など、現時点で様々な意向が考えられます。

地権者の参画による跡地利用を実現させていくためには、

地権者1人1人が自身の土地活用意向を明確にしていく必要があります

まず、若手の会の現時点の土地活用意向を確認しました。

参考）現時点の個人としての主な土地活用意向

- ・現時点では共同利用に参加したい
- ・土地を分割して共同利用に参加したい
- ・良い話があれば共同利用に参加したい
- ・興味はあるが現時点では判断出来ない
- ・公共のためなら全部売っても良い など

「貸したい」「売りたい」「未定」の方々には**共同利用の可能性**が考えられます

3. 共同利用についての検討結果

地権者にとって共同利用でどのようなことが考えられるのか、若手の会が地権者の視点から、**判断材料となる期待や不安等**を検討しました。

◆地権者が集まって共同利用を行うことで…

「地権者の土地活用の選択肢を広げることが可能」
「まちの魅力づくりに結びつけることが可能」

【期待】

- （大街区化により）資産価値の向上が可能
- 細細で動くため資金面の心配が少なく安心
- 小規模敷地の集約によって有効活用が可能
- まちの核となる魅力をつくることで、まち全体の付加価値を高められる

【不安】

- 関係する地権者等を取りまとめる労力的負担が大きい
- 自己活用出来ない
- 出店企業の撤退リスク
- 相続等によるトラブルの可能性

不安を解消する取り組みは今後検討が必要

4. 夢を実現する土地活用のために

※現時点で共同利用については跡地利用によるまちづくりの手法の1つです。

多くの地権者が共同利用に協力することによって、土地活用の可能性が広がっていきます。

- 様々な意向のチームづくり
・意向に沿うことで参加しやすい（参加者多くなれば規模が大きくなる）
・複数のチームで並行した検討・誘致活動・企業交渉
⇒（今後の検討事項）チーム間の競合が懸念
- 売却も含めた共同利用の可能性
・売却する場合は先行取得が一般的であるが、売却希望の土地を集約する方法もある。
⇒（今後の検討事項）相当のリスクも考えられる
※行政に売却すると譲渡所得の特別控除が受けられる
- 今後さらに検討の可能性が考えられること
・地権者による土地管理組織の設立の検討
・地権者によるベンチャー企業等の誘致の検討

若手の会では、地権者の参画による跡地利用の取り組みとして、様々な可能性を引き続き検討していきます。

地権者が夢を描ける跡地利用を実現させるため、**地権者皆で協力して**考えていきましょう。
⇒アンケート調査は共同利用への参加に限らず、地権者の意思を示す重要な機会です。地権者の声を反映させていくため、皆様のご協力を宜しくお願いします。

図：夢を実現する土地活用に向けた私たちの考え（案）

(2) 「NB ミーティング」の活動支援

【取り組みのポイント】

普天間飛行場を含めた宜野湾市のまちづくりに関わる市民側の検討組織である NB ミーティングでは、定例会での活発な意見交換を進めると共に、会の認知度向上に向けて対外的な場に積極的に参加し、会の活動周知や活動への参加勧誘等を行うことと併せて、会の活動周知を目的としたパンフレットを制作する。

【取り組み成果と今後の課題】

【取り組み成果】

●まちあるきと座談会を開催し、住民から直接意見を伺う事ができた。

- ・普天間飛行場周辺市街地の現状のまち並みを散策し、地域を知り地域の意見を収集するために、「我如古区のまちあるき」を開催した。
- ・まちあるきを通して、地域住民の中でも新たな発見等があり、まちづくりを考えるきっかけづくりに繋がった。

●市民参加型のイベントとしてアートインファーム講演会を開催し、オープンスペースの新たな活用手法を考える事ができた。

- ・「全体計画の中間とりまとめ」の中で、大規模公園の検討がなされていることを踏まえ、オープンスペースを市民が利用するにあたってどのような活用が考えられるか、アートインファーム（農地を活用したイベント）経験者を講師に招いて講演会を開催した。
- ・都市部にある緑地や農地等のオープンスペースの新たな活用の可能性及び自然環境の重要性を再認識する事ができた。

●活動周知パンフレット作成により、対外的な場で活用できる情報発信媒体の拡充を図った。

- ・これまでNBミーティングの活動周知を行うための情報発信媒体はパワーポイントによる活動紹介等であったため、対外的な場で活用できるパンフレットを作成し、認知度向上を促すための情報発信媒体の拡充を図った。

【今後の課題】

- まちあるきの実施に伴い地域の意見を収集することはできたが、参加者に対してNBミーティングの活動に関する周知や新規メンバー獲得に向けたPRをより一層行っていく必要がある。
- アートインファーム講演会の取り組みを踏まえて、今後は具体的なイベント内容及び実施について継続的な検討議論が必要となる。
- 制作したパンフレットをイベント等で配布する事ができたが、今後も対外的な場においてパンフレットを活用した会の活動周知を積極的に行い、市民の関心啓発を図り新規会員の獲得に繋げていく必要がある。

→現在議論を進めているNBミーティングとしての跡地利用の考えをまとめ、市民に伝わり易いパンフレットへ適宜更新を行っていく必要がある。



写真：定例会のようす①



写真：定例会のようす②



写真：我如古区まちあるきのようす



写真：アートインファーム講演会のようす



図：NBミーティングパンフレット（表面）



図：NBミーティングパンフレット（中面）

(3) 若手の会・NB ミーティング合同勉強会

【取り組みのポイント】

若手の会とNB ミーティングでは、地権者・市民の検討組織としてそれぞれ跡地利用等に関する検討が行われてきている。そのため、さらなる組織間の連携強化や、立場が異なる中での意見をそれぞれの検討に活かすことを目的として、若手の会・NB ミーティングの合同勉強会を開催する。

【概要】

●若手の会・NB ミーティング合同勉強会

○開催日時：平成 27 年 12 月 4 日（金） 17：00～18：30

○開催場所：東横イン横浜スタジアム 2 会議室

○内 容：①港北NTの講義及び視察を踏まえた意見交換
②まちづくりと市民組織

○講 師：川手 昭二（筑波大学名誉教授）

○参加者：12 名（若手の会 9 名、NB ミーティング 2 名、地主会事務局 1 名）

【取り組み成果と今後の課題】

【取り組み成果】

●港北ニュータウンの講義・現地見学を踏まえた意見交換によって、跡地だけでなく周辺市街地と連携した跡地利用の必要性が認識された。

- ・まちづくりの思想・哲学を持った上での骨格的な幹線道路等の配置と、開発前の原風景が保全・活用された計画的なまちづくりの進め方について認識された。
- ・港北ニュータウンのまちづくりと普天間の跡地利用は開発の背景等が異なるが、骨格的な幹線道路や鉄軌道等の検討も含めて、跡地利用は跡地の中だけでなく周辺市街地との連携も含めて検討する必要性が認識された。

●地権者・市民間での共通認識を持った跡地利用の理想像の検討の必要性が認識された。

- ・港北ニュータウンでは、まちづくりの思想・哲学である「グリーンマトリックス」が関係者間で共通認識されて合意形成が進められていたことが認識された。
- ・港北ニュータウンの「グリーンマトリックス」に代わるものとして、普天間においては地権者・市民等の関係者の間で、共通認識が図られた跡地利用の理想像を検討し、その結果を幅広く情報発信していく必要性が認識された。

【今後の課題】

- 地権者・市民等が一体となって合意形成を進めていくためには、若手の会・NBミーティング等の中核的組織の連携強化に加えて、すそ野を広げてより多くの地権者・市民の参画に向けた取り組みを検討していく必要がある。
- 地権者・市民が共通認識を持って合意形成を展開していくため、まずは中核的組織である若手の会とNBミーティングが連携して、共通認識を持てる跡地利用の理想像をつくりあげていく必要がある。



意見交換のようす①



意見交換のようす②

(4) 先進地視察会

【取り組みのポイント】

普天間飛行場の跡地利用に向けて、若手の会と NB ミーティングにおけるまちづくりの先進情報の収集・蓄積と、そのことによる跡地利用に関する議論の深化を図ることや両組織の交流により、地域連携の仕組みづくりに資することを目的として先進地視察会を実施する。

今年度は、計画的なまちづくりを進める手法の一つである「土地の共同利用」について理解を深めるとともに、事業化に向けて地権者や市民の協働による合意形成とまちづくり組織のあり方を主なテーマとして実施する。

【概要】

●先進地視察会

○開催日時：平成 27 年 12 月 3 日（木）～12 月 5 日（土）

○視察場所及び視察テーマ

①パナソニック汐留ミュージアム（東京都港区）

テーマ「VRのバーチャル体験」

②越谷レイクタウン（埼玉県越谷市）

テーマ「地区特性を活かしたまちづくり」

③みそのウイングシティ（埼玉県さいたま市）

テーマ「大規模区画整理によるまちづくりと複数の共同利用街区」

④港北ニュータウン（神奈川県横浜市）

テーマ「階層的なまちづくり組織」

○参加者：13 名（若手の会 10 名、NB ミーティング 2 名、地主会事務局 1 名）

【取り組み成果と今後の課題】

【取り組み成果】

●複数の共同利用街区で事業が進められる中で発生するまちづくりの問題・課題が認識された。

・事業が進められる際に街区間で使用収益の開始時期のズレと地権者間で不公平感等が生じること等、事業段階で発生するまちづくりの問題・課題が認識された。

●まちの魅力づくりと事業化検討の一体的な検討の必要性が認識された。

・まちづくりの思想・哲学を踏まえた市街地構造が検討される事が、まちづくりの検討を進める中で非常に重要な役割を持つ事について認識された。

●事業化に向けた検討を進める中で、土地利用計画が策定されるまでの合意形成を進める組織・人材の重要性が認識された。

・港北ニュータウンでは、土地利用計画の策定に向けて、まちづくりの思想・哲学である「グリーンマトリックス」を合意形成のツールとして、港北ニュータウン建設研究会が中核組織となって合意形成が展開されたことが認識された。

【今後の課題】

- 将来的に共同利用を進める場合、普天間飛行場の規模から合意形成を進めていく上で時間を要する事が大きな課題となることが想定されるため、なるべく早い段階から共同利用の可能性と課題への対応方策等の検討を進める必要がある。
- 返還・事業化までに大規模公園と一体的な市街地構造と、その中で核となるまちの魅力づくりも含めて計画的なまちづくりの検討を進める必要がある。
- 事業化に向けた検討の中で、今後合意形成を中核的に推進していく体制の構築に向けて検討が必要である。



写真：パナソニック汐留ミュージアム(1日目)



写真：越谷レイクタウン (2日目)



写真：みそのウイングシティ (2日目)



写真：港北ニュータウン (2日目)

(5) 若手の会・NB ミーティングの意見交換会の開催

【取り組みのポイント】

地権者と市民の異なる立場からそれぞれの活動に対する評価を行うとともに、次年度以降の取り組み内容について共通認識を持つ事と併せ、両組織の連携強化を目的として、若手の会・NB ミーティングの意見交換会を開催した。

【概要】

●若手の会・NB ミーティングの意見交換会

○開催日時：平成 28 年 3 月 18 日（金） 19：00～20：30

○開催場所：宜野湾市農協会館 2 階

○内 容：①今年度の取り組みについて

②次年度以降の取り組みについて

○参加者：8名（若手の会6名、NB ミーティング2名）

【取り組み成果と今後の課題】

【取り組み成果】

●それぞれの組織の活動報告を踏まえて意見交換が行われたため、今後の活動に活かせる新たな視点を獲得できた。

・両組織の1年間の活動を報告し、意見交換会を行ったため、それぞれの組織の持つ課題について洗い出すことができた。

●次年度以降の（仮）ゆめ会議設立に向けたイベントの実施に向け、両組織共に同一テーマで取り組んでいく事について了承された。

・若手の会・NB ミーティング共に、イベントの具体的な進め方や議論について、次年度各組織で継続して検討を進めていく事で決定した。

【今後の課題】

→次年度は両組織共に同一テーマで検討を進めていくため、更なる連携強化を図りつつ検討・議論に活かしていくための場として開催していく事が望まれる。



写真：意見交換会のようす①



写真：意見交換会のようす②

(6) パンフレットの制作

【取り組みのポイント】

市民側の検討組織であるNBミーティングは、これまでに様々な対外的な取り組みを行ってきたが、さらにNBミーティングの存在を周知させる必要がある。これまでの活動周知方法としては、口頭での説明やスライドによる説明等を行っていたが、対外的な場で活用できる情報発信媒体の作成が求められていた。そこで、これまでの活動内容を中心としたパンフレットの作成を行った。

【取り組み成果と今後の課題】

【取り組み成果】

●活動周知パンフレットを作成し、対外的な場で活用できる情報発信媒体の拡充を図った。

- ・NBミーティングの認知度向上を促すための媒体として活動周知パンフレットを作成した。
- ・これまでNBミーティングの活動周知を行うための情報発信媒体はパワーポイントによる活動紹介等であったため、対外的な場で活用できるパンフレットを作成し、情報発信媒体の拡充を図った。

【今後の課題】

- 制作したパンフレットは対外的な場で配布を行ったが、今後も継続してパンフレットを活用した活動周知を積極的に行っていくことが必要となる。
- 今後NBミーティングとしての跡地利用の考えをまとめ、市民へ伝わりやすいパンフレットへ適宜更新を行っていく必要がある。



図：NBミーティングパンフレット（表面）



図：NBミーティングパンフレット（中面）

2-4. 「懇話会の開催」の成果と課題

取り組み方針①：合意形成活動全体の課題や方向性について検討を行い、組織間の議論や情報共有を図る

取り組み方針②：合意形成活動全体についての評価・検証を行う場の継続

(1) 「普天間飛行場跡地まちづくり合意形成懇話会」の開催

【取り組みのポイント】

跡地利用に向けた合意形成活動は、長期的な視点で継続して議論を深めていく必要があるため、「普天間飛行場跡地まちづくり合意形成懇話会」にて本業務の進捗状況の報告や活動成果の検証等を行う。

今年度は、先進事例のまちづくり組織や開発手法等を普天間飛行場跡地に適用した場合の問題・課題等について議論を行い、円滑な合意形成活動を進めていくための方向性を導き出すとともに、検討結果は各組織へ情報共有を図ることとする。

また、合意形成活動全体の評価・検証を行うことで、これまでの中核的組織の取り組みの継続と地権者・市民等が一体となった取り組みの展開に向けた検討を深めていくこととする。

【概要】

回数	開催日時	主な議題
第1回	平成27年9月29日(火) 18:00~20:00	①平成27年度及び今後の取り組み方針について ②平成27年度「懇話会」予定表(案)について ③PVの視聴と活用方法について
第2回	平成27年10月27日(火) 17:30~19:40	①アワセゴルフ場地区の開発手法とまちづくり組織を普天間飛行場跡地利用において適用した場合の問題課題
第3回	平成27年11月24日(火) 17:30~19:30	①アワセゴルフ場地区の開発手法とまちづくり組織を普天間飛行場跡地利用において適用した場合の問題課題(共同利用) ②前年度懇話会の課題について
第4回	平成27年12月22日(火) 17:30~19:30	①先進地視察会の概要報告 ②前年度懇話会の課題について
第5回	平成28年1月26日(火) 17:30~18:30	①先進地視察会を踏まえたまちづくり組織のあり方
第6回	平成28年2月25日(木) 17:30~19:30	①平成28年度実施予定の地権者アンケート調査について
第7回	平成28年3月22日(火) 17:30~19:30	①平成27年度業務の評価と検証 ②平成28年度の方向性について

【取り組み成果と今後の課題】

【取り組み成果】

●先進事例を踏まえたまちづくり組織のあり方等についての検討が進められ、今後の合意形成活動を円滑に進める際の問題・課題の認識が深められた。

- ・アワセゴルフ場地区の取り組みを合意形成のヒントと捉え、申出換地を行う際にあたっての旧集落の字の結びつきや世代交代等の影響や、共同利用における時間的な不公平感とその対応策など、合意形成活動全体に関わる問題・課題が抽出された。
- ・港北ニュータウンでは地権者間及び施行者等とも共通認識された『グリーンマトリックス』の思想でまちづくりが進められた事を踏まえ、普天間においても合意形成のキーワードを幅広く情報発信していく必要性が認識された。
- ・懇話会で検討された合意形成活動全体の課題や今後の方向性については、翌月に定例会で報告を行うことで、組織間の情報共有の徹底と関係する主体が共通の認識を持った上で検討が進められた。

●将来の跡地利用に向けて、地権者・市民のさらなるすそ野の拡大に向けた必要性が認識され、(仮)ゆめ会議の実現に向けた議論が進められた。

- ・若手の会とNBミーティングを中心としたこれまでの取り組みに加えて、まち歩き等を通じた女性や子どもの参加など、幅広い地権者・市民等の興味・関心を持たせるきっかけづくり等の必要性が認識された。
- ・事業化に向けた具体的な跡地利用計画の検討に対応していくにあたって、(仮)ゆめ会議の必要性と組織化に向けた取り組みの必要性が共通認識として図られた。
- ・地権者・市民等の合意形成活動のすそ野を広げていくためには、早い段階から意識づけに取り組む必要があることから、将来の(仮)ゆめ会議の実現に向けて、イベント形式による段階的な取り組みに関する議論が進められた。

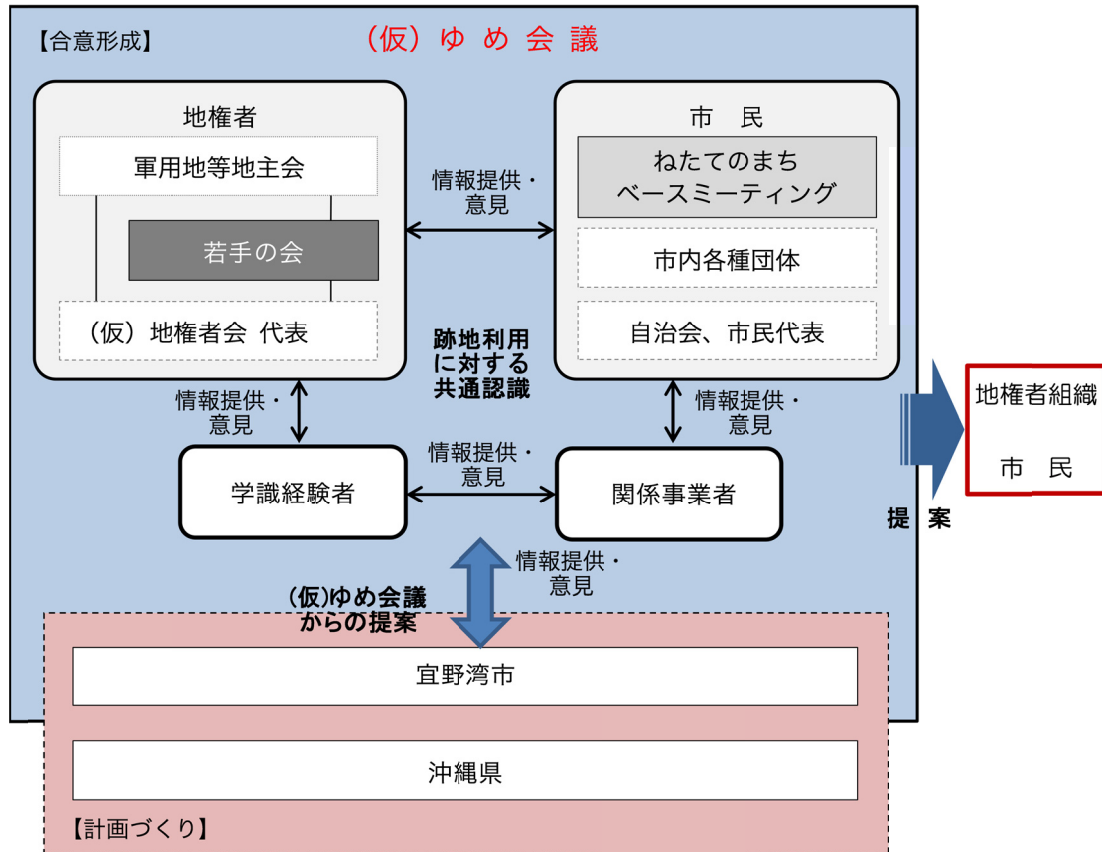
【今後の課題】

- 将来の跡地利用に向けて、早い段階から地権者・市民の意識づけに取り組んでいく必要があるため、まずはイベントの開催や活動の認知を進めることで、段階的に(仮)ゆめ会議の設立に向けた取り組みを進めていく必要がある。
- その際、若手の会やNBミーティング等の既存組織との関係性等について整理・検討が必要である。
- 懇話会が今後の合意形成活動にどう関わっていくか、会としての位置づけ及び機能について改めて共通認識を持った上で、上記取り組みを進めていく必要がある。

(2) (仮) ゆめ会議の組織と段階的な展開のイメージ

1) (仮) ゆめ会議のイメージ

(仮)ゆめ会議とは、今後跡地利用計画がより具体化するにあたって、地権者・市民・学識経験者・関係事業者等が一堂に会して、跡地利用計画に対する提案を行う事を目的として設立する組織である。



図：(仮) ゆめ会議のイメージ

2) (仮) ゆめ会議の段階的な展開イメージ

(仮) ゆめ会議は、様々な関係者等が一堂に会する事となるため、組織を設立させたとしても直ちに常設で運営していく事は難しいと考えられる。そのため最初は単発のイベントを運営する会議体として活動し知名度の向上を図りながら、徐々に活動や組織を固定化させていく手法を採る事とする。

期間	3~4年	2~3年	2~3年	5~6年	
跡地 計画 利用	計画内容の具体化 素案策定	事業化検討 案策定		事業化準備 実施計画策定	事業実施
			計画策定		
フ ゆ め 会 議	第1フェーズ (実行委員会方式によるイベント型)	第2フェーズ (部会による検討・提案型)	第3フェーズ (常設、組織運営方法の確立)		

図：(仮) ゆめ会議の段階的な展開イメージ

【各フェーズの考え方】

- 第1フェーズ：年1回開催のイベント型とする。運営は実行委員会方式とし、委員の構成は、地権者については地主会と若手の会から、市民についてはNBミーティング等から代表者を選出するあるいは公募型も視野に入れる。会議テーマは実行委員会が設定し、各々の団体に検討した成果をイベントの場に持ち寄って発表し、会議成果の採択宣言の後、結果を発信する。なお、この会議テーマについては、全体のコンセプトに関わる事項や日常生活に直結する道路あるいは住宅地の整備イメージ等、誰もが考えやすく発信しやすい内容にする事に留意する。
- 第2フェーズ：イベントが認知され、参加者がある程度増えてくると、具体的なテーマ検討・提案型の組織へ移行し、テーマごとに部会を設置して検討者を募り、成果を報告・発信する。
- 第3フェーズ：(仮)ゆめ会議の取り組み活動が認知されてきた後、常設の組織としての位置づけを検討し、組織運営方法を確立させる。

3. 次年度以降の方向性と活動内容

3-1. 次年度以降の方向性

(1) 次年度以降の方向性

1) 跡地利用計画策定・返還までの流れとそれに即した課題

今後、跡地利用計画がより具体化していくにあたり、地権者・市民それぞれに対し合意形成活動を進めていく上で想定される、現時点の課題を以下に記す。

①地権者

- ・今後跡地が返還され、事業化に向けた準備段階に移っていくと、地権者自身の土地活用方法や事業に対する賛成可否など、地権者としての判断が求められる時期が訪れることから、事業に対する地権者としての意思決定組織が新たに必要となる。そのため、今後の事業化に向けた地権者の体制づくりに向けた取り組みを早急に進めていく事が重要となってくる。
- ・上記内容の実現のためには、地主会と若手の会が、事業に対する意思決定組織構築に向けて連携して取り組んでいく必要がある。
- ・現在、地権者の多くが地主会に加入しているものの、未加入者も見られる状況の中、今後は地主会未加入者に対しても跡地利用に関する合意形成活動を進め、事業に対する意思決定組織に加入してもらう事が、跡地返還後の円滑な事業実施に繋がる事となる。そのための取り組みを今後進めていく必要がある。

②市民

- ・市民にとって跡地利用計画は「行政が考えること」、「地権者の問題」という意識があるが、市民は跡地周辺での生活者として関わる事となり、今後検討が進められていく事となる跡地とその周辺のまちづくりにおいては、市民も権利者となる。そのため、市民の意識を変えていく取り組みが必要である。
- ・NB ミーティングは対外的な場での活動周知や PR を行っているが、今後より一層新規会員の獲得に繋げていく必要がある。
- ・まち歩きや各世代を対象とした意見交換会及びワークショップ、大学生を主体とした意見交換会を開催した中で、参加者はイベント自体は楽しんでいるが、一過性のものにならないよう、継続して検討の場に参画するための取り組みを進めていく事が必要である。

③地権者と市民等の連携

- ・今後の事業化に向けた準備段階に移っていくと、地権者と市民等の意見が一致しない事もあり得る。従って、地権者と市民、それぞれの組織の意見交換会などを開催し、お互いの意見の共通理解を図りながら連携を取る必要がある。

2) 次年度以降の方向性

今年度実施した取り組みの中で、以下の2点が大きな成果として挙げられる。

①若手の会の中で、新たな合意形成活動に向けての認識が生まれ、次のステップへ進む取り組みを行おうとしている。

- ・今年度、字別意見交換会の場で若手の会自ら「夢を実現する土地活用に向けた私たちの考え(案)」を発表したことにより、若手の会自体のステップアップに繋がると共に、若手の会の中での議論の活発化につながっている。また、メンバーの跡地利用に対する関わり方についても、自主的に啓発していこうという意識に変わり始めている。
- ・若手の会の内部でも、「一過性の組織にしないためにも、これまで積み重ねた知恵を繋ぎ、世代を繋いでいける受け皿を作り上げる必要がある」という意見や、「今後さらなる会の発展のためにも若い世代に会を譲り、その人達が同世代をさらに加入させていく事が必要」といった意見があり、合意形成活動を進めていく上での会のあり方や継承方法など、合意形成活動に対する認識が深まっている。

②(仮)ゆめ会議の必要性と組織化に向けて、懇話会、若手の会で共通認識が図られた。

- ・今後、跡地利用計画がより具体化していく中で、地権者及び市民に対しては、これまで以上に跡地利用計画に対する合意形成活動が必要となる。しかしながら市民にとって跡地利用計画は「行政が考えること」、「地権者の問題」という意識がある。地権者にとっても同様、返還時期が明確でない事を起因とした跡地利用に対する意識の差が現状として存在する。
- ・そのため、今後の事業化に向けた具体的な跡地利用計画の検討に対応していくにあたり、(仮)ゆめ会議の必要性が認識された。

この成果を活かしつつ前述の課題に対応するため、今後の取り組みの方向性については、跡地利用計画に関して地権者や行政に対する提案を目的とした(仮)ゆめ会議の設立に向けた取り組みを主軸に置くものとする。従って、これまで跡地利用に対する興味が少なかった市民や地権者等の参加意識の向上等に関する取り組みを行い、多くの市民や地権者等が参加しやすい環境をつくりあげていくことが必要となる。そして、将来的に地権者、市民、学識経験者、関係事業者等が一堂に会して跡地利用計画に対する提案を行う事のできる場づくりを行うものとする。

従って次年度は、まず(仮)ゆめ会議の設立に向けた準備活動期間の初年度として位置づけ、そのために必要な地権者、市民に対する取り組みを進めていくものとする。

また、地権者の大まかな土地活用意向を把握、反映していく事が、跡地利用計画(素案)の策定を進めていく上で望ましい事から、次年度の早期において地権者を対象とした土地活用意向調査を実施する予定である。

併せて、上記方向性に従って進めていく取り組みについての評価・検証の場として、次年度も継続して懇話会を開催する予定である。



図：跡地利用計画策定・返還までの流れと今後の活動方向性イメージ（案）

3-2. 次年度以降の活動内容（案）

(仮) ゆめ会議設立に向けた準備のため、地権者、市民、評価・検証の場のそれぞれに対して、下記の方針に従って合意形成活動を進めていくものとする。

(1) (仮) ゆめ会議の設立準備に向けた地権者への取り組み

【地主会に対する取り組み】

方針：普天間飛行場跡地利用対策部会に対し、若手の会との意見交換等を行う事により跡地利用計画及び跡地利用に関する合意形成活動を進め、知識の底上げに努める。その事により、地主会・若手の会共に跡地利用に対する共通認識を図り、連携を深めていく。

【若手の会に対する取り組み】

方針：若手の会の合意形成活動に対する認識が深まってきたことを受け、次のステップとして、若手の会を主体として合意形成のすそ野を広げていく取り組みを進める。

【地主会未加入者に対する取り組み】

方針：まず地主会と若手の会との連携を図り、跡地返還後の事業に対する地権者としての意思決定組織設立のための取り組みをある程度行った上で地主会未加入者への対応を

進めていく事が、スムーズに合意形成を図っていく事ができると考えられる。従って次年度は情報誌の発行と、懇話会が主体となった実行委員会形式によるイベント開催で、跡地利用計画に対する意識の向上を図る。

【活動内容（案）】

- 若手の会定例会活動支援
- 地主会役員等との意見交換会
- 字別意見交換会
- 地権者支援情報誌「ふるさと」の発行

(2) (仮) ゆめ会議の設立準備に向けた市民への取り組み

【NB ミーティングに対する取り組み】

方針：大学生との連携やフィールドワークの実施などを継続して行い、NB ミーティングの活動の周知と新規会員の確保、知名度の向上に向けて取り組む。合わせて、会員の知識の集積や議論検討等の質の向上も図る。

【市民に対する取り組み】

方針：市民の、跡地利用に対する意識を少しずつ変えていくため、参加しやすい（敷居の低い）イベントを開催して跡地利用に対する興味を徐々に促していく。また、子ども向けのイベントを開催し、引率者に対しても跡地利用に関する知識の向上を図る。併せて情報誌の発行と、懇話会が主体となった実行委員会形式によるイベント開催で、跡地利用計画及び周辺市街地の整備に対する意識の向上を図る。

【活動内容（案）】

- NB ミーティングの活動支援
- まち歩き及びまちづくり座談会の開催
- 小中学生を対象とした勉強会等のイベント開催
- 若い世代が参加するイベントの開催
- (仮) ゆめ会議設立に向けたイベント準備
- まち未来だよりの発行
- 宜野湾市ホームページの更新

(3) 跡地利用計画（素案）策定に向けた地権者の意向把握

方針：地権者の大まかな土地活用意向を把握するため、郵送によるアンケート調査を早期の段階で実施する。実施にあたってはより多くの回答が得られるよう、本アンケート調査の重要性について分かりやすく記載し、設問を簡略化するなど工夫に努める。

【活動内容（案）】

- 土地活用意向調査の実施

(4) (仮) ゆめ会議の設立準備に向けた各種活動に対する評価・検証の場づくり

方針：(仮) ゆめ会議設立に向け実施していく各取り組みについて評価・検証を行うため、継続して懇話会を開催すると共に、今後の事業化検討段階に向けて、面的整備事業の具体的な仕組みや土地活用方法等についての知識を習得し、懇話会会員の知識の底上げを図る。なお、懇話会が主体となった実行委員会形式によるイベントの内容については、懇話会の場で内容を確定させていくものとする。また、若手の会・NB ミーティング両組織の意見交換の場としても、懇話会を活用する。

【活動内容（案）】

- 懇話会の開催
- 若手の会・NB ミーティングの意見交換会の開催

(5) 先進地視察会

方針：まちづくり先進情報の収集・蓄積並びに議論の深化を図る。視察メンバーに関しては若手の会の内部でも、会の今後の発展のために、世代交代（若い世代に会を譲る）という意識が芽生えてきている事から、若い世代及び新規会員を中心として構成する。このとき、過去の視察会の知識を事前に学習した上で視察会を実施する事で、より効果的な視察となるよう工夫する。また、視察会の中で合同勉強会を開催して現地を実際に体験しながら学び、効果的な知識習得に繋げていくものとする。

【活動内容（案）】

- 先進地視察会の実施
- 学識者等による若手の会・NB ミーティング合同勉強会の開催

4. 各種合意形成活動の取り組み概要

4-1. 「必要な情報提供、情報伝達状況の確認」の取り組み

(1) 地権者支援情報誌「ふるさと」の作成・発行

1) 取り組みのポイント

地権者に対して、跡地利用に関する行政側の情報や若手の会の活動等に関する情報の提供、また、各種説明会等への参加の促進を目的として、重要な情報発信媒体として地権者支援情報誌「ふるさと」の発行を行う。

また、字別意見交換会の開催前の周知及び開催後の結果報告と若手の会の「土地の共同利用」に対する検討結果の報告、さらに、次年度に実施予定のアンケート調査の周知等を行うこととする。

2) 情報発信の内容

回数	発送時期	主な掲載内容
第 42 号	平成 28 年 1 月	○告知事項 ・字別意見交換会のお知らせ ○報告・紹介事項 ・アワセゴルフ場地区の関係者との意見交換会の実施報告 ・先進地視察会の実施報告 ・若手の会の活動内容の紹介 ・普天間飛行場跡地利用に関するプロモーションビデオの周知
第 43 号	平成 28 年 3 月	○報告・紹介事項 ・字別意見交換会の実施報告 ・若手の会の共同利用に対する考えの紹介 ・字別意見交換会の主な意見の紹介 ・地主会役員と若手の会の意見交換会の実施報告 ○告知事項 ・アンケート調査実施のお知らせ ・若手の会の参加者募集のお知らせ

「若手の会」の活動が活発化しています。

「若手の会」は平成14年度に発足して以降、毎月1回の定例会において、普天間飛行場跡地のまちづくりに向けた検討に継続して取り組んでいます。
平成27年度は定例会に加えて自主会等も開催し、地権者の土地活用方法の1つである『土地の共同利用』について検討を深めました。
字別意見交換会では、「若手の会」の検討状況についてもご説明いただく予定です。



若手の会定例会の様子



平成26年度に作成した若手の会提言パンフレット

※「若手の会」のブログをご覧ください。(アドレス:wakatekai.exblog.jp)
若手の会の定例会の活動内容や各種情報を掲載したブログを開設しています。
是非一度ご覧ください。



普天間飛行場跡地利用に関するプロモーションビデオが公開されています。

平成27年9月に沖縄県と宜野湾市が共同で普天間飛行場の跡地利用計画の検討状況をイメージ出来るプロモーションビデオを作成しました。
跡地利用を実現した将来のまちのイメージを映像で視聴出来ます。



これはイメージであり、決定した計画ではありません。

※沖縄県企画部企画調整課ホームページ(下記アドレス)から閲覧することが可能です。
是非一度ご覧ください。(http://www.pref.okinawa.jp/site/kikaku/chosei/)

【地権者支援情報誌「ふるさと」発行元】

宜野湾市役所 基地政策課 まち未来課
〒901-2710 沖縄県宜野湾市野嵩一丁目1番1号
電話 098-893-4401 (直通) FAX 098-892-7022

普天間飛行場跡地利用に係る情報は、宜野湾市ホームページや情報提供窓口(宜野湾市基地政策課まち未来課)でも提供しております。
情報収集や跡地利用に係る相談、ご意見を述べる場としてお気軽にご活用ください。



ふるさと

vol.42
2016
January
発行
宜野湾市基地政策課まち未来課

地権者支援情報誌「ふるさと」では、普天間飛行場跡地利用に係る最新情報をお伝えします。

平成27年度 字別意見交換会を開催します。 ～ぜひ、皆さんご参加ください～

これまで地権者と行政の直接的な対話の場として開催してきた「地権者懇談会」に変わって、『字別意見交換会』を下記の日程で開催致します。
字別意見交換会では跡地利用計画の策定経過と跡地利用計画の実現のための土地活用方法等について、ご説明を行います。

●内容

- ①計画づくりのこれまでの経緯
- ②跡地利用計画実現のために(地権者の土地活用について)
- ③(仮)共同利用に対する若手の会の考え(案)

●日程

開催日	時間	会場	対象地区
2/4(木)	午後7時～8時30分	宜野湾公民館	宜野湾、佐真下
2/12(金)	午後7時～8時30分	宜野湾市農協会館2階	野嵩、中原、赤道、上原、神山
2/15(月)	午後7時～8時30分	沖縄コンベンションセンター 会議棟B	大山、伊佐、真志喜、大謝名
2/18(木)	午後7時～8時30分	喜友名公民館	新城、喜友名
2/21(日)	午後2時～3時30分	宜野湾市立中央公民館2階	全地区

※対象地区は目安ですので、どの会場にお越しいただいても構いません。
ご都合の良い日・会場に家族やご近所の地権者の皆様をお誘いの上、奮ってご参加下さい。

重要なお知らせ

●土地の共同利用について

- ・地権者の土地活用として、「自分で使いたい」「売りたい」「貸したい」「保有しておきたい」等が考えられます。
- ・「貸したい」「売りたい」場合に、資産価値の向上や貸しやすさ等の観点から、『土地の共同利用』が手法の1つとして考えられることから、その概要についてご説明させていただきます。

土地の共同利用とは
同じ土地活用意向の地権者が集まることで複数の土地を一体的に利用すること

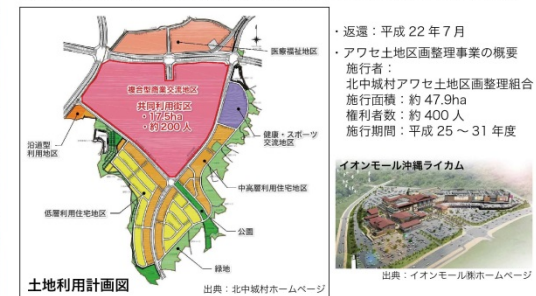
図：地権者支援情報誌「ふるさと」Vol.42(表面)

アワセゴルフ場地区の関係者との意見交換会を実施しました！

去る平成27年9月下旬に、地権者の検討組織である「普天間飛行場の跡地を考える若手の会(以下、若手の会)」とアワセゴルフ場地区の関係者との意見交換会を実施しました。意見交換会の概要等を報告します。

アワセゴルフ場地区の跡地利用の取り組み

平成27年4月に開業したイオンモール沖縄ライカムを核として、今後も中部徳洲会病院等の開設も予定され、地権者が主体となった跡地利用の取り組みが進められています。



土地利用計画図

【意見交換会の結果】

- ・約7割の地権者が返還後も土地を「貸したい」という意向に基づき、大規模な共同利用街区へ大規模商業施設を誘致し、地権者の意向を反映させた跡地利用が進められています。
- ・アワセゴルフ場地区の地権者によって組織された「アワセゴルフ場地権者会」と地主会や北中城村等が協力して、早期の土地活用に向けた協力体制のもと跡地利用の取り組みが進められています。



意見交換会の様子

●意見交換会を踏まえた「若手の会」の意見
⇒合意形成を進める際、この人の説明は納得してもらえないというキー・パーソンの存在が必要である。
⇒アワセは面積が約48haと普天間の10分の1の規模で、地権者数も約400人であるため、普天間飛行場全体ではなく一部に絞って考えた際の参考になる。
⇒普天間では地区内に共同利用が複数出来る可能性がある。その際に個人の希望がどれくらい通るのか、橋渡しの役割を担う組織等が必要になるのではないかと。

今後の跡地利用の検討に向けた先進地視察会を実施しました！

去る平成27年12月初旬に、「若手の会」と市民の目線で普天間飛行場跡地及び周辺のまちづくりについて考える組織である「わたのまちベースミーティング」の合同で、先進地視察会を実施しました。視察の概要等を報告します。

視察先①パナソニック汐留ミュージアム(東京都港区)

●概要 跡地利用の将来のまちづくりをイメージするため、平成27年3月に普天間飛行場跡地利用計画策定調査で策定したVR(バーチャルリアリティ)を3Dで体験しました。



会場内でVRを体験する様子

●視察を踏まえた「若手の会」の意見

- ⇒まちづくりのイメージを視察し、将来のまちを身近に感じられ、参考にすることが出来た。
- ⇒3Dの世界を体感し、鳥になった感覚で得られたまちを見直すことが出来た。今後、まちづくりに欠かせないツールとして活用していけると感じた。

視察先②みそのウィングシティ(埼玉県さいたま市)

●地区概要 施行面積：約320ha、権利者数：約1,100人、施行期間：平成12～38年度
●視察概要 さいたま市の副都心の1つとして大規模区画整理が施行中の地区で、埼玉スタジアム2002や埼玉高速鉄道線の浦和美園駅を中心にまちづくりが進められています。



駅直上より埼玉スタジアムを望む

●視察を踏まえた「若手の会」の意見

- ⇒埼玉スタジアムという核があるのに、訪れるお客はまちを素通りしていることが取れいと感じた。普天間でも大規模公園に集まる人が滞在出来る施設等の計画が必要かと思う。
- ⇒地区内で3つの共同利用が進められていたが、開発が早い街区と遅い街区との不平等が発生したため、その点を反省しながら進めている課題を聞くことが出来た。

視察先③港北ニュータウン(神奈川県横浜市)

●地区概要 施行面積：約1,317ha、権利者数：約5,600人、施行期間：昭和49～平成17年度
●視察概要 計画的なまちづくりを推進するため、構想・計画・事業の各段階で、地権者・市民、行政・施行者の中で様々な組織が参画してまちづくりが進められました。



駅前共同利用街区

●視察を踏まえた「若手の会」の意見

- ⇒自然の中に綺麗にまちが収まっていた。昔からこの姿があったかのように自然の中に溶け込んでいて不思議に感じた。
- ⇒原風景を残すことが大切と感じた。
- ⇒住んでいる方がまちづくりを考えた方が、どのようなまちに住みたいか等、理想とするまちをつくるということ、考え方のスタートが違っていた。
- ⇒住んでいる人達は緑に対する意識が高く、自分達が住みたいくなるよう維持管理にも取り組んでいるように感じられた。

図：地権者支援情報誌「ふるさと」Vol.42(中面)

重要なお知らせ

**次年度、地権者の皆様を対象とした
大まかな土地活用意向を把握するための
アンケート調査を実施する予定です。**

「沖縄県と宜野湾市では「跡地利用計画案」の策定が進められている中、地権者の皆様の現時点の大まかな土地活用意向を把握するためのアンケート調査を次年度に実施する予定です。地主会や若手の会からもアンケート調査について、以下のお話がありました。

「地主会会長」から皆様へ

自分の大事な財産について、地権者個人の意思表示をする手段はアンケート調査以外にありません。「売りたい」「貸したい」等の意向を示すことも**地権者のまぢづくりに対する大きな務め**だと思います。

「若手の会」から皆様へ

「貸したい」「未定」の方々は共同利用の可能性が考えられるため、その可能性をアンケート調査で把握する必要があります。現時点で全ての地権者の皆さんが参加し、協力出来るのがアンケート調査です。**地権者一人ひとりの意思を示す貴重な機会**であるため、ご協力を若手の会からもお願いします。

地権者の皆様のご意向を反映させていくため、跡地利用に向けた取り組みをご理解いただくとともにアンケート調査がお手元に届いた際にはご協力を宜しくお願いします。

※地権者アンケート調査の詳細は別途ご案内する予定です。

「若手の会」の参加者を募集しています！

「若手の会」は、普天間飛行場跡地のまぢづくりに向けた検討組織として、現在41名で活発に活動しており、毎月1回定期的に会合を開催しています。(毎月第2火曜日の19時30分より宜野湾市役所にて)
地権者や地権者のご家族であればどなたでも「若手の会」のメンバーとなることが出来ます。本会の活動に興味・関心のある方は、宜野湾市基地政策部まち未来課までご連絡ください。

◆女性の方もお気軽にご連絡下さい



定例会の様子

【地権者支援情報誌「ふるさと」発行元】

宜野湾市役所 基地政策部 まち未来課
〒901-2710 沖縄県宜野湾市野高一丁目1番1号
電話 098-893-4401 (直通) FAX 098-892-7022

普天間飛行場跡地利用に係る情報は、宜野湾市ホームページや情報提供窓口(宜野湾市基地政策部まち未来課)でも提供しております。情報収集や跡地利用に係る要望、ご意見を述べる場としてお気軽にご活用ください。



ふるさと

vol.43
2016
3月 March
発行
宜野湾市基地政策部まち未来課

地権者支援情報誌「ふるさと」では、普天間飛行場跡地利用に係る最新情報をお伝えします。

字別意見交換会を開催しました！

●5日間で合計100名以上の地権者の方々にご参加いただきました。

平成28年2月4日(木)、12日(金)、15日(月)、18日(木)、21日(日)の5日間にわたって、「字別意見交換会」を開催しました。

当日は「計画づくりのこれまでの経緯・「地権者の土地活用」の説明後に、「普天間飛行場の跡地を考える若手の会(以下、若手の会)」、「土地の共同利用」に対する検討結果の発表が行われました。その後、参加者の方々の質疑応答と意見交換を行いました。

●開催日時と参加者数

開催日	時間	会場	参加人数
2/4(木)	午後7時～8時30分	宜野湾区公民館	22名
2/12(金)	午後7時～8時30分	宜野湾市農協会館2階	25名
2/15(月)	午後7時～8時30分	沖縄コンベンションセンター 会議棟B	23名
2/18(木)	午後7時～8時30分	喜友名公民館	11名
2/21(日)	午後2時～3時30分	宜野湾市立中央公民館2階	26名
合計			107名

多くの地権者の方々にご参加いただき、ありがとうございました。
今後皆様への情報発信と意見交換の機会を継続して取り組んでいきます。



「字別意見交換会」で「若手の会」より発表された説明内容と、参加者の方からいただいたご意見の一部を裏面でご紹介します。

図：地権者支援情報誌「ふるさと」Vol.43(表面)

**「若手の会」の共同利用に対する考え
がまとまりました！**

「若手の会」では地権者の視点で「土地の共同利用」について今年度検討を積み重ね、「夢を実現する土地活用に向けた私たちの考え」がまとめられました。その内容をご紹介します。

夢を実現する土地活用に向けた私たちの考え

1. 地権者が夢を描けるまぢづくりにちの魅力を

まちの核となる魅力づくりと地権者の有効な土地活用の手法の一つである**共同利用**について検討

◆共同利用の仕組みに留意すること
1. 核となる魅力づくりのための必要性
(地権者の意向による土地活用の実現)
⇒ネットワーク型の核地と連携して、まちの核となる魅力を生み出す
2. 地権者の土地活用意向と生活再構築としての必要性
(東部地域に代わる収入の確保)
⇒地権者の意向による土地活用の実現

【共同利用の仕組みに関する主な意見】
・大規模公園が魅力的に活かされる
・大規模公園と連携し、観光や街外へのマーケティングも見据えて人を引き寄せる
・普天間飛行場にしかないものを活用し、継続して人を集める
・海外も含め、まちの将来案にあった企業誘致
・その時点の最先端のものを取り込んでいく

2. 共同利用の検討経過

◆返還後の地権者の土地活用意向

自己活用したい 貸したい 売りたい
保有して おきたい 現時点では 未定 ...

現時点で様々な地権者の土地活用意向が存在
1人1人が 土地活用意向を明確にすることが必要

若手の会の土地活用意向を確認したところ...
・土地を分割して共同利用に参加したい
・良い話があれば共同利用に参加したい
・興味はあるが現時点では判断出来ない
・公共のためなら全部売っても良い など

「貸したい」「売りたい」「未定」の方々は**共同利用の可能性**が存在
※可能性はアンケート調査による把握が必要

3. 共同利用についての検討結果

地権者にとって、共同利用でどのようなことが考えられるか

◆地権者が集まって共同利用を行うことで...
「土地活用の選択肢を拡大」
「まちの魅力づくりに結びつけられる」

地権者の判断材料となる期待や不安等を検討
【期待】
○資産価値の向上
○小規模敷地の有効活用
○まち全体の付加価値の向上
【不安】
○関係者等をとりまとめる負担
○自己活用出来ない
○出店企業の撤退リスク
○相続等によるトラブル

4. 夢を実現する土地活用のために

※共同利用は土地活用の可能性の一つ
多くの地権者が共同利用に協力することで、土地活用の可能性が広がる。

◆様々な意向のチームづくり
・意向の強弱に応じて参加しやすい
◆売却も含めた共同利用の可能性
・売却希望を募集する方法(相対なリスクもある)
◆地権者の意向によって可能性が広がっていく
・地権者による土地管理組織の設立の検討

若手の会は、地権者が夢を描ける様々な可能性を引き続き検討していきます。

地権者が夢を描ける跡地利用の実現に向け、**地権者様ご協力**していきますよう。

アンケート調査は地権者の意思を示す貴重な機会のため、皆様のご協力を宜しくお願いします。

**「字別意見交換会」でいただいた
ご意見を紹介します。**

「字別意見交換会」で参加者の方からいただいた、跡地利用計画の進捗や土地活用等に関する質問や意見の内容について、一部をご紹介します。

■意見交換の主な内容

- 跡地利用の検討の具体化に向けた懸念等
 - ・公園・緑地が大きな割合を占めるが、維持管理方法や土地の買い取り又は借地等についてどのように考えられているか。
 - ・土地の共同利用へデパート等が出店後に撤退してしまった場合、地権者が自分達で区画整理や売買等を行わなければならないか。
 - ・オンラインカムの借地料はどのように決められ、現時点でいくらなのか。
- 計画づくりと地権者の合意形成
 - ・早期のまぢづくりに皆が希望することであるが、道路や公園等に減少して土地を提供する話を理解出来なければまぢづくりにへの協力も難しいと思う。
 - ・今後計画が黒詰まっていって中で、地権者の意向が組織的に反映される仕組み等は検討されているか。
- その他跡地利用全般について
 - ・跡地利用を進める際に汚染物質や不発弾等どのように調査を行い、改善されていくのか。
 - ・新聞等でDisneyランドの計画が報じられていたが、Disneyランドが出来たのであれば現在の計画は関係なくなってしまうのではないのか。
 - ・沖縄の人は素晴らしい歴史を持っており、沖縄のアイデンティティを見える化した街並みの実現に取り組んで欲しい。

**地主会役員と「若手の会」との
意見交換会が行われました！**

去る1月28日(木)、宜野湾市農協会館において、地主会役員と「若手の会」との意見交換会(宜野湾市軍用地等地主会主催)が行われました。
意見交換会では「字別意見交換会」に先立って、「若手の会」から「夢を実現する土地活用に向けた私たちの考え(案)」の発表が行われ、その後意見交換を行いました。

■意見交換の主な内容

- ・まずはどのようなまぢづくりに進めるのか、そのために必要なことを行おうと全部整理していかねば地主は動きようがないのではないのか。
- ・地権者各々が利活用を行うことで虫食い状態のまぢになってしまわないように、若手の会は土地活用の手法の一つとして共同利用を総論としており、良いまぢづくりに向けて協力を検討していければと考えている。
- ・現在は財産を持っているのでどうしようかと考えている地主の方もいらっしゃるが、相続して子の代になればその人達の意向に任せることになるのではないかと考える。



意見交換会の様子

図：地権者支援情報誌「ふるさと」Vol.43(中面)

(2) 「まち未来だより」の作成・発行

1) 取り組みのポイント

市民を対象とした、情報誌「まち未来だより」による情報提供を行い、情報発信媒体としての確立を目的とする。情報誌による情報提供にあたっては、跡地利用に関する情報だけでなく宜野湾市全体のまちづくりに関する情報をわかりやすく提供することで市民が親しみを感じられる情報誌となることに留意する。また、「まち未来だより」の発行によって、跡地利用に向けた現在の進捗状況等に関する情報提供を行うとともに、NB ミーティングの認知度向上に向けた活動の周知や市民のまちづくり機運向上を目的に実施した「まち歩きとまちづくり座談会」等の周知等を行うこととする。

2) 情報発信の内容

回数	発送時期	主な掲載内容
第3号	平成27年11月	<p>○報告・紹介事項</p> <ul style="list-style-type: none">・「NBミーティング」の紹介・「NBミーティング」の我如古区まちあるき活動の報告 <p>○告知事項</p> <ul style="list-style-type: none">・自治会を対象とした「まち歩きとまちづくり座談会」実施のお知らせ・市民を対象とした「世代交流まちづくりゆんたく会」実施のお知らせ・学生を対象として「学生円卓会議」実施のお知らせ
第4号	平成28年3月	<p>○報告・紹介事項</p> <ul style="list-style-type: none">・野嵩1区、喜友名区、真栄原区を対象に実施した「まち歩きとまちづくり座談会」の実施報告・「世代交流まちづくりゆんたく会」の実施報告・「学生円卓会議」の実施報告

みんなで考えよう！ 宜野湾市の夢のあるまちづくり

vol.03

2015 Nov 発行

まち未来だより 11月

宜野湾市基地政策部まち未来課

「まち未来だより」では、普天間飛行場跡地利用を始めとした宜野湾市のまちづくりに係る最新情報をお伝えします。

様々な取り組みを通して将来のまちづくりを考えていきます。

普天間飛行場跡地周辺の宜野湾市のまちづくりは、「地権者」の問題と認識されがちですが、跡地利用を成功させるためには、跡地周辺の地域と一体となった整備が必要であるため、市民のみならずの協力が不可欠となります。そこで、跡地周辺も含めた夢のあるまちづくりに向けた第一歩として、今年度は以下の取り組みを予定しておりますので、多くのおみなさまの参加をお待ちしております。

【今年度の取り組み予定】

12月 まちあるきとまちづくり座談会開催！

昨年度実施地区

上大謝名区

まちあるき 事前説明

まちあるき

取りまとめの様子

宜野湾区

まちあるき

取りまとめの様子

昨年度から自治会単位で跡地周辺の身近なまち歩き、日常では気づきにくい様々な発見を通して、今後の跡地利用に繋げて行くため、「まちあるきとまちづくり座談会」を開催しております。昨年度は、上大謝名区、宜野湾区で実施し、日常生活の中では気づかない部分について意見や提案を頂きました。今年度も自治会の協力のもと取り組み予定です。また、開催が決まりましたらホームページ等でお知らせします。

1月（仮称）全世代ディスカッション開催！

ディスカッションの様子

ディスカッションのまとめ

跡地のまちづくりは宜野湾市の今後のまちづくりに大きな影響を与えるものであり、世代間を超えて考えていく必要があることから、跡地利用に対する市民の関心の向上を図るきっかけづくりとして昨年度に引き続き開催いたします。

図：「まち未来だより」vol.3（表面）

2月（仮称）Youth Conference Okinawa2016

昨年度の Youth Conference Okinawa2015の様子

意見を書き込んだボード

昨年度に引き続き宜野湾市の将来のまちづくりを担う高校生、大学生を招き、各学生の意見交換を通して、跡地利用に対する関心の啓発を図ります。

ねたてのまちベースミーティングの今年の取り組みをご紹介します。

○ねたてのまちベースミーティングとは・・・

平成18年度に発足した「普天間飛行場跡地利用に関する市民合同勉強会」が前身となります。発足時のメンバーは、市内各種団体からまちづくりに関心を持つ職員等を中心に活動を開始しました。平成19年3月には、会の名称を現在の「ねたてのまちベースミーティング」（通称：NBミーティング）と決定し、市民公募を行いメンバーの枠を広げ、周辺市街地のまちづくりを含めた普天間飛行場の跡地利用を考える事を目的に、定例会で意見交換や対外的な取り組み活動を行っております。

○我知古区まちあるき

今年の対外的な取り組みとして、団体の繋がりの拡大と飛行場周辺の街並みの状況について知る事を目的に我知古区のまちあるきを行いました。

【まちあるき参加者からの感想】

- ・川があらちここにあり水の豊かさを感じた。
- ・名前を知っていたけどヒージャーや比屋良川など今初めて現地を歩いて、新しい発見があった。
- ・分かってはいるけど分からない、見ているけれど何なのか分からないという状況があり、私と同じように地元にいるけれど分からない人が結構いると思う。もう少し文化野などの地元のアトラクションや場所、保存を促してほしい。
- ・ずっと住んでいても地域の方に話を聞かないとわからない事があったことあると思う。この様な（座談会）ミーティングの様な機会を積極的に見る事は多分なかったと思う。早く貴重体験させて頂きたいと思う。

○NBミーティングに参加してみませんか？

NBミーティングに参加して、普天間飛行場跡地のまちづくりに関して考えてみませんか？ 宜野湾市内在住、又は宜野湾市内勤務・修学の方であれば誰でも参加可能です。あなたの意見や考えを、ぜひ私達にお聞かせください。あなたの考えが、宜野湾市のより良いまちづくりに繋げる第一歩となります。

【宜野湾市 まち未来課 インターネットホームページ内NBミーティング紹介】
http://www.city.ginowan.okinawa.jp/sisei/base/02/29127_507.html

【NBミーティング活動紹介プログラム】
<http://netate.seesaa.net/>

現在、毎月第3火曜日夜7時から宜野湾市役所において定例会を開催中です。

※参加を希望される方は下記連絡先までご一報お願いします。

【「まち未来だより」発行元】

宜野湾市役所 基地政策部 まち未来課
〒901-2710 沖縄県宜野湾市野原一丁目1番1号
電話 098-993-4401（直通） FAX 098-992-7022

普天間飛行場跡地利用に係る情報は、宜野湾市ホームページ情報提供窓口（宜野湾市基地政策部まち未来課）でも提供しております。情報収集や跡地利用に係る要望、ご意見を述べるとしてお気軽にご活用ください。

図：「まち未来だより」vol.3（裏面）

みんなで考えよう！ 宜野湾市の夢のあるまちづくり

vol.04

2016 Mar 発行

まち未来だより 3月

宜野湾市基地政策部まち未来課

「まち未来だより」では、普天間飛行場跡地利用を始めとした宜野湾市のまちづくりに係る進捗状況をお伝えします。

様々な取り組みを通して将来のまちづくりを考えていきます。

普天間飛行場跡地周辺の宜野湾市のまちづくりは、「地権者」だけに限られてくるものと認識されがちですが、跡地利用を成功させるためには、跡地周辺の地域と一体となった整備が必要であるため、市民のみならずの協力が不可欠となります。そこで、跡地周辺も含めた夢のあるまちづくりに向けて、今年度は以下の取り組みを行いました。

【今年度の取り組み】

野高1区

開催日時：平成27年12月12日（土） 13:30～16:30
参加者数：12名（野高1区自治会員）

まちあるき事前説明

まちあるき（ハウステンボス付近）

まちあるき（野原と遺跡）

まちあるき座談会

喜友名区

開催日時：平成28年1月16日（土） 13:30～16:30
参加者数：18名（喜友名区自治会員、学生円卓会議登壇学生）

まちあるき事前説明

まちあるき（バイラインの緑地）

まちあるき（リーファー一帯のシャワー）

まちあるき座談会

真栄原区

開催日時：平成28年2月13日（土） 13:30～16:30
参加者数：17名（真栄原区自治会員）

まちあるき事前説明

まちあるき（真栄原バス停付近）

まちあるき（真栄原公園のフェンス跡）

まちあるき座談会

自治会単位で跡地周辺の身近なまち歩き、日常では気づきにくい様々な発見を通して、今後の跡地利用に繋げて行くため、各自治会の協力のもと「まちあるきとまちづくり座談会」を開催しております。今年度は、野高区、喜友名区、真栄原区で実施し、日常生活の中では気づかない部分について参加者の皆様から意見や提案を頂きました。

図：「まち未来だより」vol.4（表面）

世代交流まちづくりゆんたく会開催！

宜野湾市中央公民館展示室 開催日時：平成28年1月30日（土） 13:00～16:00
参加者数：20名

ディスカッションの様子

ワークショップの様子

ワークショップの結末

参加された皆さん

跡地のまちづくりは宜野湾市の今後のまちづくりに大きな影響を与えるものであり、世代間を超えて考えていく必要があることから、跡地利用に対する市民の関心の向上を図るきっかけづくりとして宜野湾市と（※）ねたてのまちベースミーティングを開催しました。

普天間飛行場跡地利用 学生円卓会議

沖縄コンベンションセンター 開催日時：平成28年2月27日（土） 13:00～18:00
参加者数：39名（学生の登壇者11名、オブザーバー28名）

学生白熱議論の様子

参加者の意見交換会

意見を書き込んだボード

大学生の登壇者の皆さん

宜野湾市の将来のまちづくりを担う若い大学生を招き、各学生の意見交換を通して、普天間飛行場跡地利用に対する関心の啓発を図るために宜野湾市と（※）ねたてのまちベースミーティングを開催しました。

※ねたてのまちベースミーティング

平成18年度に発足した「普天間飛行場跡地利用に関する市民合同勉強会」が前身となります。発足時のメンバーは、市内各種団体からまちづくりに関心を持つ職員等を中心に活動を開始しました。平成19年3月には、会の名称を現在の「ねたてのまちベースミーティング」（通称：NBミーティング）と決定し、市民公募を行いメンバーの枠を広げ、周辺市街地のまちづくりを含めた普天間飛行場の跡地利用を考える事を目的に、定例会で意見交換や対外的な取り組み活動を行っております。

○NBミーティングに参加してみませんか？

NBミーティングに参加して、普天間飛行場跡地のまちづくりに関して考えてみませんか？ 宜野湾市内在住、又は宜野湾市内勤務・修学の方であれば誰でも参加可能です。あなたの意見や考えをNBミーティングにお聞かせください。あなたの意見や考えが、宜野湾市のより良いまちづくりに繋げる第一歩となります。

【宜野湾市 まち未来課 インターネットホームページ内NBミーティング紹介】
http://www.city.ginowan.okinawa.jp/sisei/base/02/29127_507.html

【NBミーティング活動紹介プログラム】
<http://netate.seesaa.net/>

現在、毎月第3火曜日夜7時から宜野湾市役所において定例会を開催中です。

※参加を希望される方は下記連絡先までご一報お願いします。

【「まち未来だより」発行元】

宜野湾市役所 基地政策部 まち未来課
〒901-2710 沖縄県宜野湾市野原一丁目1番1号
電話 098-993-4401（直通） FAX 098-992-7022

普天間飛行場跡地利用に係る情報は、宜野湾市ホームページ情報提供窓口（宜野湾市基地政策部まち未来課）でも提供しております。情報収集や跡地利用に係る要望、ご意見を述べるとしてお気軽にご活用ください。

図：「まち未来だより」vol.4（裏面）

(3) ホームページの充実化

1) 取り組みのポイント

市外・県外に対して広く普天間飛行場跡地利用に関する取り組み状況等の周知方法として、跡地利用に係る行政側からの情報や若手の会、NB ミーティングの活動状況等の情報を提供するため、まち未来課のホームページの充実化を図るものとする。

2) 主な情報更新内容

- ・ 本業務の内容
- ・ 今年度の取り組み経過
- ・ 若手の会の活動状況（今年度の活動概要、活動年表の更新等）
- ・ NB ミーティングの活動状況（今年度の活動概要等）
- ・ 地権者支援情報誌「ふるさと」第 42～43 号をバックナンバーとして掲載
- ・ まち未来だより第 3～4 号を掲載

4-2. 「市民・地権者等の意見・意向把握の実施、しくみづくり」の取り組み

(1) 「まち歩きとまちづくり座談会」の開催

1) 取り組みのポイント

普天間飛行場の跡地利用に向けては、周辺市街地と一体となった整備が必要となる。市民にとって跡地利用は「地権者の問題」という意識があるため、跡地利用と併せた周辺市街地の整備に向けては、まずは市民のまちづくり機運の醸成を図る必要がある。また、将来的に跡地利用を契機として宜野湾市全体のまちづくりを検討していくためには、市民によるまちづくり議論が展開できるよう、段階的にステップアップできる取り組みを継続的に実施していく必要がある。そこで、自治会単位で自身の住む地域のまちづくりの点検と評価を行う「まち歩きとまちづくり座談会」を開催する。

2) 実施概要

① 「まち歩きとまちづくり座談会 in 野嵩1区」

○開催日時：平成27年12月12日（土） 13：30～16：30

○参加者：12名（野嵩1区自治会員）

○プログラム：①開会 ②事前説明 ③まち歩き（90分）

④まち歩きの取りまとめ（60分） ⑤発表 ⑥閉会



写真：まち歩きの事前勉強のようす



写真：まち歩きのようす



写真：まち歩きの取りまとめのようす



写真：まち歩きの結果の発表のようす

②「まち歩きとまちづくり座談会 in 喜友名区」

○開催日時：平成28年1月16日（土） 13：30～16：30

○参加者：18名（喜友名区自治会員、学生円卓会議登壇学生 他）

○プログラム：①開会 ②事前説明 ③まち歩き（70分）

④まち歩きの取りまとめ（60分） ⑤閉会



写真：まち歩きの事前勉強のようす



写真：まち歩きのようす



写真：まち歩きのようす



写真：まち歩きの取りまとめのようす



写真：まち歩きの結果の取りまとめ



写真：まち歩きの結果の取りまとめ

③「まち歩きとまちづくり座談会 in 真栄原区」

○開催日時：平成28年2月13日（土） 13:30～16:30

○参加者：17名（真栄原区自治会員）

○プログラム：①開会 ②事前説明 ③まち歩き（70分）

④まち歩きの取りまとめ（60分） ⑤閉会



写真：まち歩きの事前勉強のようす



写真：まち歩きのようす①



写真：まち歩きのようす②



写真：まち歩きの取りまとめのようす

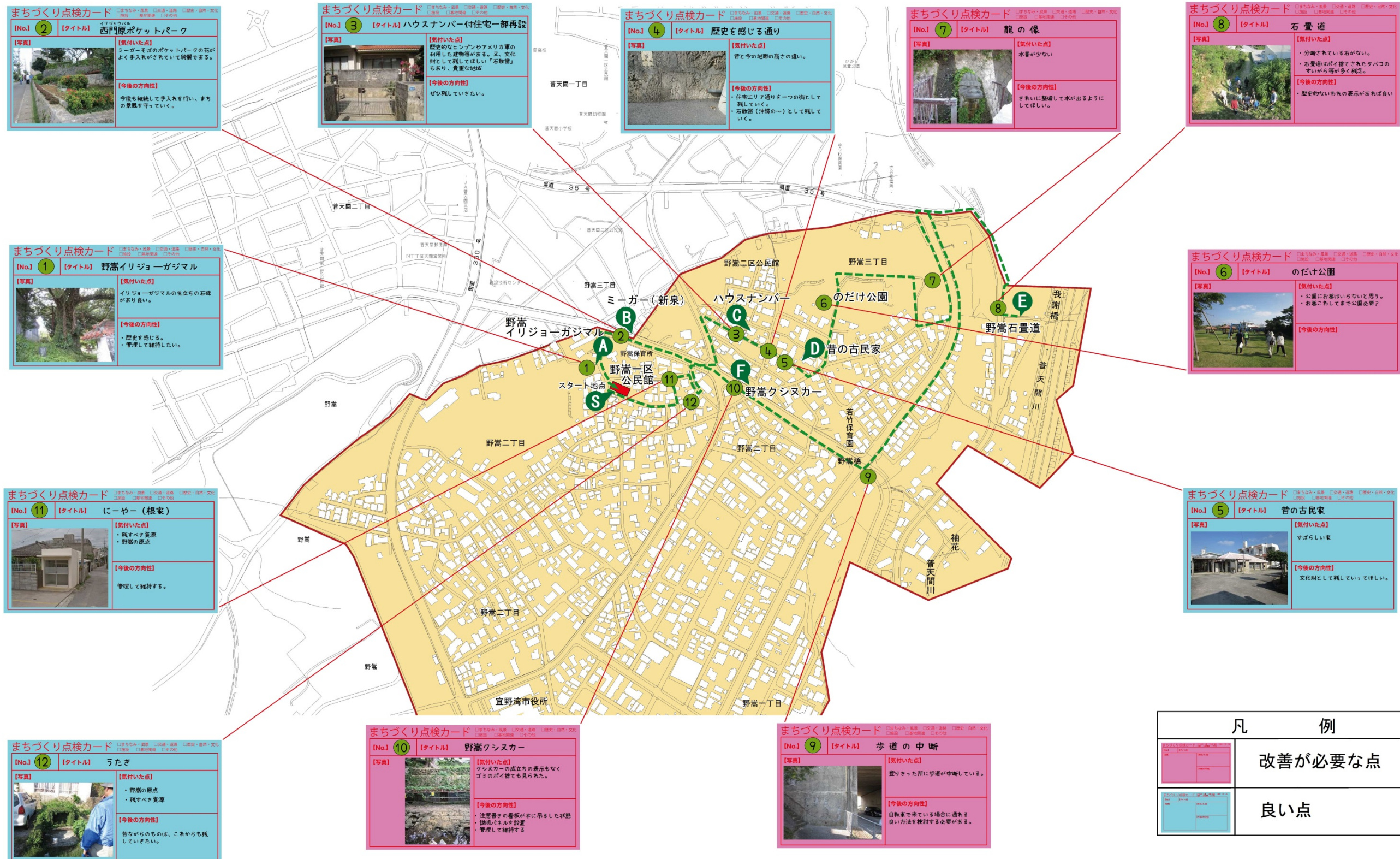


写真：まち歩きの結果の取りまとめ①



写真：まち歩きの結果の取りまとめ①

みんなで考えよう！ 宜野湾の夢のあるまちづくり
野嵩1区まちづくり点検マップ



凡 例	
	改善が必要な点
	良い点

図：まち歩きとまちづくり座談会 in 野嵩1区点検マップ

みんなで考えよう！ 宜野湾の夢のあるまちづくり 喜友名区まちづくり点検マップ

喜友名地区全体に関わること

まちづくり点検カード
【No.】7 【タイトル】子どもにとって楽しい町

【写真】
公園が少なく感じました。

【気付いた点】
公園が少ないのを感じました。

【今後の方向性】
子供が遊べる公園が必要なのかな。

まちづくり点検カード
【No.】7 【タイトル】基地との接近性

【写真】
肉親で基地内の飛行機が見え基地との接近性が感じられた。

【気付いた点】
肉親で基地内の飛行機が見え基地との接近性が感じられた。

【今後の方向性】
跡地利用のあり方として、地域との接続方法を考える必要がある。

まちづくり点検カード
【No.】4 【タイトル】自然豊かな史跡

【写真】
歴史にも古い野種の石垣古い家屋の特徴である防風林が美しい。

【気付いた点】
歴史にも古い野種の石垣古い家屋の特徴である防風林が美しい。

【今後の方向性】
ぜひ残していきたい。出来れば石垣と防風林を含め史跡指定すべきだと思う。

まちづくり点検カード
【No.】9 【タイトル】数多く残るシーサー

【写真】
昔からシーサーが配属され、今でも見た事もないシーサーもあって面白い。

【気付いた点】
昔からシーサーが配属され、今でも見た事もないシーサーもあって面白い。

【今後の方向性】
説明のパネルなどあれば理解しやすい。

まちづくり点検カード
【No.】10 【タイトル】チュンナーガー

【写真】
足利だったため、転倒の危険性あり。

【気付いた点】
足利だったため、転倒の危険性あり。

【今後の方向性】
誰でも安全にたどり着けるような整備が必要。

まちづくり点検カード
【No.】1 【タイトル】東島袋の庭園

【写真】
昔ながらの自然の石で庭を作っているのが良かった。

【気付いた点】
昔ながらの自然の石で庭を作っているのが良かった。

【今後の方向性】
東島袋の庭園の管理が良かった。

まちづくり点検カード
【No.】3 【タイトル】シオン幼稚園前の道

【写真】
歩道の幅が狭い。

【気付いた点】
歩道の幅が狭い。子供の数が多いため、歩道が狭い（道で遊ぶ子供が多い）。

【今後の方向性】
小さな子供が歩くため、もっと道を全体的に広くするべき。歩道は最低必要なのかなと思います。

まちづくり点検カード
【No.】10 【タイトル】チュンナーガー

【写真】
喜友名泉、グッピー、アメンボなど生き物がいた。

【気付いた点】
喜友名泉、グッピー、アメンボなど生き物がいた。

【今後の方向性】
外装種を考慮しつつ、子ども達が遊べるまちづくりを！



まちづくり点検カード
【No.】2 【タイトル】A～C昔ながらの風景

【写真】
城址前時代から残る庭園や格式、ウフブダがある。

【気付いた点】
城址前時代から残る庭園や格式、ウフブダがある。

【今後の方向性】
説明板などと分かりやすい。シオン幼稚園フェンスの空間に説明板がほしい。

まちづくり点検カード
【No.】10 【タイトル】チュンナーガー

【写真】
基地と周囲の空間に文化財として保存されているのが素晴らしい。

【気付いた点】
基地と周囲の空間に文化財として保存されているのが素晴らしい。

【今後の方向性】
説明板等、建てたり、教育委員会の史跡として保存されている所を強調した方がいい。

まちづくり点検カード
【No.】5 【タイトル】自然、文化と融合した住居

【写真】
フクギ、石垣など昔ながらの自然文化、古木を残した住居がとても良かった。

【気付いた点】
フクギ、石垣など昔ながらの自然文化、古木を残した住居がとても良かった。

【今後の方向性】
昔ながらのものを融合した住居づくり

まちづくり点検カード
【No.】8 【タイトル】集落内の基群

【写真】
階段が狭く急な足元が気がかりな感じがする。

【気付いた点】
階段が狭く急な足元が気がかりな感じがする。

【今後の方向性】
住宅地と基地のすみ分けが望まれる。

まちづくり点検カード
【No.】7 【タイトル】基地フェンス沿い

【写真】
フェンスの中(基地内)の自然が豊富

【気付いた点】
フェンスの中(基地内)の自然が豊富

【今後の方向性】
残された自然を跡地利用としてどう活用するか検討が必要。

まちづくり点検カード
【No.】6 【タイトル】F地点付近の道

【写真】
交通量が多いが、道が狭い。

【気付いた点】
交通量が多いが、道が狭い。

【今後の方向性】
ガードレールの位置、かなりのカーブと交通量なので、より慎重が必要。短く、説明のプレート設置、信号の取り付け

凡 例	
	改善が必要な点
	良い点

図：まち歩きとまちづくり座談会 in 喜友名点検マップ

みんなで考えよう！ 宜野湾の夢のあるまちづくり 真栄原区まちづくり点検マップ

真栄原地区全体に関わること

まちづくり点検カード

[No.] 3 [タイトル] 真栄原の歩道

【写真】

【気付いた点】

- ・ 外路樹の下が茂って歩道を狭くしている。

【今後の方向性】

- ・ 雑草の草刈りが必要。

まちづくり点検カード

[No.] 5 [タイトル] 交通、道路

【写真】

【気付いた点】

- ・ 歩道の区別
- ・ 交通量が多いのに道は狭く歩行者の危険
- ・ 歩行者が道を歩くと接近

【今後の方向性】

- ・ 緑引き（路側帯）が必要。
- ・ 歩道を走り、危険物を運ぶ事で街が美化されると思う。

まちづくり点検カード

[No.] 6 [タイトル] 基地ゲート前、フェンス沿い

【写真】

【気付いた点】

- ・ フェンスとガードレールの間に草が生い茂らえている。
- ・ ゲート前のゴミが目立つ、散乱
- ・ 雑草が目立つ

【今後の方向性】

- ・ 草刈りして歩道にしてほしい。
- ・ 清掃で改善

まちづくり点検カード

[No.] 4 [タイトル] まちなみ、風景（不法投棄）

【写真】

【気付いた点】

- ・ 色んな物が散らして道沿いで目立ち環境を悪くしている。
- ・ 屋敷の中はゴミの山

【今後の方向性】

- ・ 早めに対処しないとゴミ捨て場状態になる。
- ・ 行政の指導が必要である。
- ・ 町議決

まちづくり点検カード

[No.] 4 [タイトル] 佐真下アップガー

【写真】

【気付いた点】

- ・ 佐真下公園等、広場、産川前清掃・管理されている。

【今後の方向性】

- ・ アップガー水の利用方法ため池、自然との協調。

まちづくり点検カード

[No.] 1 [タイトル] 風景

【写真】

【気付いた点】

- ・ 私が望みし存在感がある。
- ・ 佐真下公園は高台にあって、綺麗に整備されているが利用されていない様子が多く勿体ない。

【今後の方向性】

- ・ 並木の再現も良いと思いました。

まちづくり点検カード

[No.] 5 [タイトル] フェンス沿い

【写真】

【気付いた点】

- ・ 基地フェンス沿いにもスプレーが近くにありエンジン音あり。

【今後の方向性】

- ・ 佐真下公園内東屋で基地周辺の視察も。

まちづくり点検カード

[No.] 3 [タイトル] 景観、安全性（植栽）

【写真】

【気付いた点】

- ・ 歩道の雑草
- ・ 佐真下公園の植栽してはどうか
- ・ 歩道沿いの雑草が目立つ

【今後の方向性】

- ・ 植栽してほしい。
- ・ 街路樹を植えてほしい。
- ・ 植栽の整備

まちづくり点検カード

[No.] 4 [タイトル] まちなみ、風景（不法投棄）

【写真】

【気付いた点】

- ・ 色んな物が散らして道沿いで目立ち環境を悪くしている。
- ・ 屋敷の中はゴミの山

【今後の方向性】

- ・ 早めに対処しないとゴミ捨て場状態になる。
- ・ 行政の指導が必要である。
- ・ 町議決

まちづくり点検カード

[No.] 4 [タイトル] 佐真下アップガー

【写真】

【気付いた点】

- ・ 佐真下公園等、広場、産川前清掃・管理されている。

【今後の方向性】

- ・ アップガー水の利用方法ため池、自然との協調。

まちづくり点検カード

[No.] 1 [タイトル] 風景

【写真】

【気付いた点】

- ・ 私が望みし存在感がある。
- ・ 佐真下公園は高台にあって、綺麗に整備されているが利用されていない様子が多く勿体ない。

【今後の方向性】

- ・ 並木の再現も良いと思いました。

まちづくり点検カード

[No.] 5 [タイトル] フェンス沿い

【写真】

【気付いた点】

- ・ 基地フェンス沿いにもスプレーが近くにありエンジン音あり。

【今後の方向性】

- ・ 佐真下公園内東屋で基地周辺の視察も。

まちづくり点検カード

[No.] 8 [タイトル] 優先道路

【写真】

【気付いた点】

- ・ 三角道路で優先線は示されているが危険な道路

【今後の方向性】

- ・ 道路事情を考慮しより安全な道路にする。

まちづくり点検カード

[No.] 3 [タイトル] 景観、安全性（植栽）

【写真】

【気付いた点】

- ・ 歩道の雑草
- ・ 佐真下公園の植栽してはどうか
- ・ 歩道沿いの雑草が目立つ

【今後の方向性】

- ・ 植栽してほしい。
- ・ 街路樹を植えてほしい。
- ・ 植栽の整備

まちづくり点検カード

[No.] 4 [タイトル] まちなみ、風景（不法投棄）

【写真】

【気付いた点】

- ・ 色んな物が散らして道沿いで目立ち環境を悪くしている。
- ・ 屋敷の中はゴミの山

【今後の方向性】

- ・ 早めに対処しないとゴミ捨て場状態になる。
- ・ 行政の指導が必要である。
- ・ 町議決

まちづくり点検カード

[No.] 1 [タイトル] 風景

【写真】

【気付いた点】

- ・ 私が望みし存在感がある。
- ・ 佐真下公園は高台にあって、綺麗に整備されているが利用されていない様子が多く勿体ない。

【今後の方向性】

- ・ 並木の再現も良いと思いました。

まちづくり点検カード

[No.] 5 [タイトル] フェンス沿い

【写真】

【気付いた点】

- ・ 基地フェンス沿いにもスプレーが近くにありエンジン音あり。

【今後の方向性】

- ・ 佐真下公園内東屋で基地周辺の視察も。

まちづくり点検カード

[No.] 6 [タイトル] 歓楽街跡の風景

【写真】

【気付いた点】

- ・ 歓楽街跡屋敷外の所にゴミが置かれています。
- ・ 空家が多い所程ゴミが多い。
- ・ チリがひどいので汚い。

【今後の方向性】

- ・ 清掃活動等を行い、まちを綺麗にしたい必要がある。

まちづくり点検カード

[No.] 4 [タイトル] まちなみ、風景（不法投棄）

【写真】

【気付いた点】

- ・ 色んな物が散らして道沿いで目立ち環境を悪くしている。
- ・ 屋敷の中はゴミの山

【今後の方向性】

- ・ 早めに対処しないとゴミ捨て場状態になる。
- ・ 行政の指導が必要である。
- ・ 町議決

まちづくり点検カード

[No.] 4 [タイトル] 佐真下アップガー

【写真】

【気付いた点】

- ・ 佐真下公園等、広場、産川前清掃・管理されている。

【今後の方向性】

- ・ アップガー水の利用方法ため池、自然との協調。

まちづくり点検カード

[No.] 1 [タイトル] 風景

【写真】

【気付いた点】

- ・ 私が望みし存在感がある。
- ・ 佐真下公園は高台にあって、綺麗に整備されているが利用されていない様子が多く勿体ない。

【今後の方向性】

- ・ 並木の再現も良いと思いました。

まちづくり点検カード

[No.] 5 [タイトル] フェンス沿い

【写真】

【気付いた点】

- ・ 基地フェンス沿いにもスプレーが近くにありエンジン音あり。

【今後の方向性】

- ・ 佐真下公園内東屋で基地周辺の視察も。

まちづくり点検カード

[No.] 8 [タイトル] 優先道路

【写真】

【気付いた点】

- ・ 三角道路で優先線は示されているが危険な道路

【今後の方向性】

- ・ 道路事情を考慮しより安全な道路にする。

まちづくり点検カード

[No.] 7 [タイトル] マガリイサガマ

【写真】

【気付いた点】

- ・ ガマが腐った事を説明で知りました。
- ・ 住宅地の中にガマがある。現状埋められており見えない所からない。

【今後の方向性】

- ・ ガマの跡地である事を明記し、昔の状況を知らせてほしい。
- ・ 歴史を伝えていく為にも標識等を設置したい。

まちづくり点検カード

[No.] 1 [タイトル] カトリック前

【写真】

【気付いた点】

- ・ 歩道（レンガ歩道）
- ・ レンガが凸凹している。
- ・ 歩道側の植栽地の前が目立つ

【今後の方向性】

- ・ 木の植栽で改善
- ・ 清掃が必要
- ・ 歩道の整備してほしい

まちづくり点検カード

[No.] 2 [タイトル] ハトの糞

【写真】

【気付いた点】

- ・ ハトに糞をあげて、沢山のハトが糞を垂らして汚いです。

【今後の方向性】

- ・ 糞をあげない機にする。
- ・ 糞の掃除

まちづくり点検カード

[No.] 7 [タイトル] カーブで歩行者が見えづらい

【写真】

【気付いた点】

- ・ 道幅狭く、カーブで見えない為危険。
- ・ 狭い道として利用されていて、交通量も多い。

【今後の方向性】

- ・ ミラーの設置を希望
- ・ 早期の道路開通が望まれる。

まちづくり点検カード

[No.] 2 [タイトル] オーナチマヤーのガマ

【写真】

【気付いた点】

- ・ 旧のガマの跡が見えない。

【今後の方向性】

- ・ 旧のガマの写真等、説明の碑を建てる。
- ・ 所在碑を建ててほしい。
- ・ 4つあるガマ（案内板がほしい）

凡 例	
	改善が必要な点
	良い点

図：まち歩きとまちづくり座談会 in 真栄原点検マップ